

琵琶湖博物館 年報

4号

平成11(1999)年度



LAKE BIWA MUSEUM
琵琶湖博物館

ごあいさつ

早いもので、もう4冊目の年報を出すことになりました。

1999年度には、企画展示として「湖の船～木造船にみる知恵と工夫」を開催しました。これは、使う場所や目的にあわせた伝統的な木造船を、琵琶湖を中心に世界各地のもので紹介し、そこにみられる人々の知恵と工夫に焦点をあてたものです。また、これに関連して、大津市歴史博物館との共催行事や、常設展示にある丸子船の製作者、松井三四郎さんの熱のこもった記念講演会などをも、開催することができました。

また水族企画展示として、「都会にくらす魚たち」を開き、環境の変化と魚の移り変わりを、大阪や東京の都心部を流れる川を中心に示し、淡水魚を守るとはどういうことかを考えて貰うように工夫してみました。

さらに、企画展示室を使って、「赤野井湾遺跡発掘調査成果展～かつて、湖のほとりで～」と「ワクワクたんぼ探検（春編）」を開きました。これらは、それぞれ1ヶ月間という短い期間でしたが、合わせて4万人近くの方が入場され、琵琶湖畔で営まれた6千年以上にわたる生活の様子や、農業・農村のくらしの中に息づく工夫と知恵、さらには多面的な機能や環境との関わりについて、来場者の方々に考えたり、楽しんだりしていただいたようです。

博物館の利用者の中には、ただ展示を見るだけでなく、博物館で行なわれるさまざまな行事に参加する人々が、ますます増えてきています。講座や野外観察などの行事はもちろん、室内の「体験プログラム」に参加された人数は5617人となり、これは昨年の2倍以上になります。

このような中で、学校向けの体験学習プログラムである「びわ湖・ミュージアムスクール」を、昨年度からモデル的に始め、今年度でそれをまとめることができました。この事業は、学校が利用しやすい博物館とはどのようなものか、そして、学校がいかに博物館を利用するか、という双方の立場から、博物館の特色を活かした学習プログラムづくりを考えたものです。この2年間に県内の小・中・高校18校が参加され、博物館・学校・地域を結ぶ総合的な環境学習が展開されましたが、その結果をまとめて、「びわ湖・ミュージアムスクール活用集」を出版しました。2000年度からはこれを1つのモデルとして、学校側の主体的な働きで進めて行って貰いたいと考えております。

この他にもホームページ上で、「収藏品データベース（魚類標本）」の公開を開始したり、魚類や浮遊生物（プランクトン）に関する「電子図鑑」を発足させるなど、コンピュータをさらに活用した活動も順次展開してきています。

博物館の幅広い利用を考え、さらには多くの方々に「博物館をつくる」活動を行なって頂くよう、さまざまな試みを進めていくつもりでおりますので、いっそうの積極的な御協力をお願いいたします。

2000年10月

滋賀県立琵琶湖博物館
館長 川那部 浩哉

目 次

ごあいさつ	1
I 博物館活動の概要	4
1 研究・調査活動	4
(1) 総合研究	4
(2) 共同研究	4
(3) 専門研究	5
(4) 公表されたおもな研究成果	6
(5) 研究助成を受けた研究	8
(6) 第2回琵琶湖博物館研究発表会	8
(7) 特別研究セミナー	9
(8) 研究セミナー	11
(9) 研究員の受入	12
(10) 海外調査	12
(11) 国際交流活動	13
2 交流・サービス活動	14
(1) 観察会・見学会等	14
(2) 博物館入門セミナー、博物館講座、専門講座	15
(3) 田んぼ体験教室	16
(4) 質問コーナー・フロアトーク	17
(5) 教職員研修会	17
(6) 博物館体験学習	19
(7) 「びわ湖・ミュージアムスクール」モデル事業	20
(8) 体験学習プログラムの開発	21
(9) 「体験学習の日」の活動	21
(10) びわ湖学習21プラン	22
(11) 水族展示交流活動	22
(12) フィールドレポーター	22
(13) 夏休み相談室	23
(14) (仮称) ボランティア制度の検討	23
(15) 博物館実習	23
(16) ワークショップおよびシンポジウムの開催	24
3 情報活動	26
(1) 館内の情報センター(図書情報利用室)	26
(2) 通信網を利用した館外サービス	26
(3) 資料整備	28
(4) 情報システムの構築	30

4	資料整備活動	31
(1)	収蔵資料	31
(2)	新規収集資料	33
(3)	燻 蒸	35
(4)	資料の貸出	36
(5)	特別観覧許可	37
(6)	資料評価委員	37
5	展示活動	38
(1)	企画展示	38
(2)	水族企画展示	38
(3)	ギャラリー展示	39
(4)	水族トピック	39
(5)	展示関連事業	40
6	印刷物	41
II 利用状況		43
1	1999年度入館者数	43
(1)	総入館者数	43
(2)	学校等入館者数	44
(3)	曜日別入館者数	45
2	来館者アンケート調査結果	46
3	新聞掲載記録	48
4	雑誌等掲載記録	53
5	テレビ放映・ラジオ放送記録	56
III 組織および運営		57
1	組 織	57
2	職 員	58
3	予 算	60
4	滋賀県立琵琶湖博物館協議会	61
IV 博物館利用のご案内		62

※表紙の写真：企画展示「湖の船～木造船にみる知恵と工夫」の展示風景

I 博物館活動の概要

1 研究・調査活動

「生物学（自然科学）が対象とするさまざまな生物（自然）だけではなく、人間が形成してきた社会・文化的事象をも視野に入れ、両者を複合的システムとして歴史的時間軸のなかで捉えるとともに、その複合システムの諸関係の総体を把握するための概念」である「生命文化複合体」としての琵琶湖の「価値」を明らかにすることを目標に、学際的な総合研究やテーマを絞った共同研究、ならびに個々の学芸員の資質を高める専門研究に取り組んできた。総合研究と共同研究については、審査委員会による審査の結果、1999年度は以下の研究課題が実施された。

(1) 総合研究

「湖と人間」という博物館のテーマにそって、長い時間軸に留意した自然と人間の関係、生物の生息空間の特徴に着目した人間活動を含む生態系の研究、資料を基礎とする博物館の活用法などを学際的・総合的に取り組んだ。総合研究のテーマは、次の3件である。

- ①博物館資料の整理・保管と利用に関する研究（代表 八尋克郎）
- ②東アジアの中の琵琶湖－コイ科魚類の展開を軸とする－環境史に関する研究（代表 中島経夫）
- ③琵琶湖沿岸生態系の動態（代表 芳賀裕樹）

(2) 共同研究

博物館のテーマにそって、博物館の内外の研究者と共同でおこなった。

- ①琵琶湖の水生植物の種分化と生態分化（代表 山川千代美）
- ②子ども博物館の展示と利用に関する研究（代表 芦谷美奈子）
- ③社会的要因が内湖の生態系に与える影響（代表 美濃部 博）
- ④屋外展示生態観察池および水路における生物モニタリング（代表 楠岡 泰）
- ⑤琵琶湖周辺の水田利用魚類の生態と人間のかかわり（代表 前畑政善）
- ⑥住民参加で収集した気象情報の利活用に関する基礎研究（代表 西之園晴夫）
- ⑦水利形態の詳細復元による地域環境史の総合的把握－扇状地・滋賀県甲良町を事例に－
(代表 脇田健一)
- ⑧琵琶湖集水域における中世村落の考古・文献資料の総合的評価にもとづく研究（代表 橋本道範）
- ⑨近江盆地を中心とした先史・古代遺跡成立期の古環境復元（代表 宮本真二）
- ⑩琵琶湖周辺域における過去1万年間の自然環境と人間活動の変遷（代表 宮本真二）
- ⑪滋賀県内における地上性歩行虫類（オサムシ・ゴミムシ）の分布（代表 八尋克郎）
- ⑫カワウによる水域生態系から陸域生態系への物質移動とその影響（代表 亀田佳代子）
- ⑬大分県安心院町での長鼻類化石の発掘と解析（代表 高橋啓一）

⑭滋賀県における陸産貝類の分布に関する研究（代表 中井克樹）

⑮沿岸域モニタリングのための常設型リモートセンシングの運営に関する基礎的研究

（代表 戸田 孝）

⑯ユーラシアにおける淡水棲貝類の生物地理に関する研究（代表 高安克己）

(3) 専門研究

《湖沼研究系》

- | | |
|---|--------------|
| ①コイ科魚類の咽頭歯の研究 | 中島 經夫 |
| ②琵琶湖における絨毛虫と藻類の共生関係について | 楠岡 泰 |
| ③Ecology, behaviour and evolution of fishes | Rossiter, A. |
| ④ビワコミズンタダミの生態学的研究 | 松田 征也 |
| ⑤琵琶湖水流動の時間発展の解明および展示手法の開発 | 戸田 孝 |
| ⑥イバラモのシュート群動態と雌雄異株性に関する研究 | 芦谷美奈子 |
| ⑦琵琶湖水系における伝統的資源利用とその変化 | 中藤 容子 |
| ⑧琵琶湖等における外来生物に関する研究 | 中井 克樹 |
| ⑨琵琶湖歴史環境の世界史的評価に関する研究 | 牧野 久実 |
| ⑩琵琶湖沿岸域におけるバクテリアの生態 | 芳賀 裕樹 |
| ⑪水域と陸域を結ぶカワウの役割—安定同位体比分析を用いた食性解析と物質移動の解明— | 亀田佳代子 |
| ⑫鮮新—更新統中に挟在する火山灰層の広域対比 | 里口 保文 |

《集水域研究系》

- | | |
|------------------------------|-------|
| ①湖沼文化に関する国際比較研究：写真資料の利用をとおして | 嘉田由紀子 |
| ②植生と水質調整：一降雨流出時の水質変化の組成解析 | 草加 伸吾 |
| ③シンシュウゾウの形態的特徴について | 高橋 啓一 |
| ④日本産カワゲラ科昆虫の分類学的再検討 | 内田 臣一 |
| ⑤新生代の植物化石の研究 | 山川千代美 |
| ⑥オサムシ上科甲虫の系統分類学的研究および生態学的研究 | 八尋 克郎 |
| ⑦地域の意志決定から見た歴史的環境保全 | 牧野 厚史 |

《応用地域研究系》

- | | |
|-------------------------|-------|
| ①環境に配慮した農業用排水路の考察と今後 | 内藤又一郎 |
| ②日本産ナマズ類3種の繁殖生態とその分化 | 前畑 政善 |
| ③近江の地域性に関する考古学的研究 | 用田 正晴 |
| ④琵琶湖流入河川の流出特性に関する研究 | 美濃部 博 |
| ⑤琵琶湖に生息するモクズガニの生態的研究 | 桑村 邦彦 |
| ⑥琵琶湖水系に生息するビワマスとアマゴの関係 | 桑原 雅之 |
| ⑦最終間氷期以降における古環境変動の高精度復原 | 宮本 真二 |

《博物館学系》

- | | |
|-------------------------------|----------------|
| ①新しい博物館像とは何か－琵琶湖博物館が求めたもの | 布谷 知夫 |
| ②淡水魚類の音響行動について（特にギギの音響行動について） | 秋山 廣光 |
| ③甲殻類の系統分類学と寄生虫学の研究 | Grygier, M. J. |
| ④琵琶湖関係古文書に関する歴史的評価研究事業 | 橋本 道範 |
| ⑤環境教育における教材開発 | 江島 穰 |
| ⑥新指導要領による総合学習と博物館の連携に関する調査研究 | 横山 泰史 |
| ⑦博物館を利用した環境学習の教材作成 | 中川 修 |

琵琶湖博物館総合研究・共同研究審査委員会 委員

氏 名	現 職
遠 藤 修 一	滋賀大学教育学部 教授
鄭 大 聲	滋賀県立大学人間文化学部 教授
西 野 嘉 章	東京大学総合研究博物館 教授
原 田 英 司	京都大学 名誉教授
福 井 勝 義	京都大学大学院人間環境学研究科 教授
山 岸 哲	京都大学大学院理学研究科 教授
伊 庭 治 之	滋賀県総合教育センター研修部 理科教育係長
川那部 浩 哉	滋賀県立琵琶湖博物館 館長
西 岡 信 夫	滋賀県立琵琶湖博物館 副館長

(4) 公表された主な研究成果

研究成果は、琵琶湖博物館研究業績集第4号に詳しく収録する。ここでは代表的成果のみを掲載する。

・湖沼研究系

中島経夫 : Nakajima, T. and Matsushashi, Y. (2000) Fossil record of common carp, genus *Cyprinus*, from the Ayama Formation of the Kobiwako Group. *Earth Science*, 54(1): 55-57.

楠岡 泰 : 楠岡 泰・芳賀裕樹 (1999年10月11日) 琵琶湖沿岸生態系の構造と動態 : 付着動物による濾水効果. 日本陸水学会第64回大会, 滋賀県立大学 (滋賀県彦根市).

Rossiter, A. : Noakes, D.L.G., Beamish, F.W.H. and Rossiter, A. (1999)

Conservation implications of behaviour and growth of the lake sturgeon, *Acipenser fulvescens*, in northern Ontario. *Environ. Biol. Fishes* 55:135-144.

中井克樹 : Nakai, K. (1999) Recent faunal changes in Lake Biwa, with particular reference to the bass fishing boom in Japan. In: Kawanabe, H., Coulter, G. W. and Roosevelt, A. C. (eds.) *Ancient Lakes: Their Cultural and Biological Diversity*. Kenobi Productions, Ghent., 227-241.

戸田 孝 : 戸田 孝 (1999) 情報提供システムアクセス記録の分析. *博物館研究*, 34(9):17-21.

- 松田征也：中井克樹・松田征也. 2000. 日本における淡水貝類の外来種. 月刊海洋, 軟体動物学, 号外No.20:57-65.
- 芦谷美奈子：芦谷美奈子・山中裕子・瀬川也寸子, 2000 (3月) 文部省親しむ博物館づくり事業「漁師修行の旅」実施報告書.
- 里口保文：里口保文・渡辺真人・中条武司・片岡香子 (2000) 上総層群下部に挟在するKd38火山灰層—その対比の再検討—. 地質学雑誌, 106:189-204.
- 中藤容子：近江八幡市教育委員会 (1998) 近江八幡の火祭り行事. 民俗文化財調査報告書. 近江八幡市教育委員会.
- 牧野久実：Makino, K. (1999) Why the maruko boat has disappeared? In:Kawanabe, H., Coulter, G. W. and Roosevelt, A. C. (eds.) Ancient Lakes:Their Cultural and Biological Diversity. Kenobi Productions, Ghent., 161-174.
- 芳賀裕樹：芳賀裕樹・芦谷美奈子・楠岡 泰・桑村邦彦・桑原雅之・中井克樹・巖 靖子・辻 彰洋・中里亮治・花里孝幸・佐久間昌孝 (1999年10月11日) 琵琶湖沿岸生態系の構造と動態・研究の方向性と課題 日本陸水学会第64回大会 滋賀県立大学 (滋賀県彦根市).
- 亀田佳代子：Kameda, K. (1999) A breeding record of Raffles's Malkoha *Phaenicophaeus chlorophaeus* from Borneo. Journal of Yamashina Institute of Ornithology, 31(2):94-97.

・集水域研究系

- 嘉田由紀子：Kada, Y. (1999) Socio-ecological changes around Lake Biwa. In:Kawanabe, H., Coulter, G. W. and Roosevelt, A. C. (eds.) Ancient Lakes:Their Cultural and Biological Diversity. Kenobi Productions, Ghent., 243-260.
- 高橋啓一：Takahashi, K. and Namatsu, K. (1999) Mammoth remains in the Japanese islands. 2nd International Mammoth Conference (Rotterdam, the Netherlands).
- 草加伸吾：草加伸吾・濱端悦治 (2000年3月26日)「森林土壌の水質形成過程(3) —皆伐の土壌への影響」. 第47回日本生態学会大会, 広島大学 (東広島).
- 内田臣一：内田臣一・稲田和久・祖田 周 (1999) 島根県斐伊川にコカワゲラ (カワゲラ科) が多産. 兵庫陸水生物, 50:87-90.
- 山川千代美：山川千代美 (2000) 鮮新—更新統古琵琶湖層群産のイチョウ葉化石. 植生史研究, 8 (1):33-38.
- 牧野厚史：牧野厚史 (1999) 歴史的環境保全における「歴史」の位置づけ—町並み保全を中心として—. 環境社会学研究 (環境社会学会), (5) : 232-239.
- 八尋克郎：Yahiro, K. (1999) Records of *Carabus japonicus chugokuensis* (Coleoptera, Carabidae) from Shiga Prefecture, Central Japan. Elytra, Tokyo, 27(2):650.

・応用地域研究系

- 前畑政善：前畑政善 (1999年10月9日) ビワコオオナマズの産卵生態. 1999年度日本魚類学会.

九州大学（福岡県福岡市）。

用田政晴：用田政晴（1999）信長 船づくりの誤算－湖上交通史の再検討－。180pp，サンライズ出版，彦根。

美濃部 博：美濃部博（1999年12月20日）内湖の生物環境の保全。滋賀県土木部第21回土木技術研究発表会。滋賀県建設技術センター（滋賀県草津市）。

桑村邦彦：芳賀裕樹・桑村邦彦・伯耆晶子・久保田俊夫（1999年10月11日）琵琶湖沿岸生態系の構造と動態：赤野井湾の植物プランクトン組成と栄養塩の変動－春期～夏期－。日本陸水学会第64回大会。滋賀県立大学（滋賀県彦根市）。

桑原雅之：Iguchi, K. and Kuwahara, M. (1999) Egg size variation in landlocked ayu from Lake Biwa system. Fisheries Science, 65:790-791.

宮本真二：宮本真二・安田喜憲・北川浩之・竹村恵二（1999）福井県蛇ヶ上池湿原における過去14000年間の環境変遷。日本花粉学会誌，45:1-12.

・博物館学研究系

布谷知夫：布谷知夫（1999）博物館活動担当者。博物館講座10巻，生涯学習と博物館。151-166。雄山閣，東京。

Grygier, M.J. : Hendler, H., Grygier, M.J., Maldonado, E. and Denton, J. (1999) Babysitting brittle stars: heterospecific symbiosis between ophiuroids (Echinodermata). Invertebrate Biology, 118:190-201.

橋本道範：HASHIMOTO, M (1999) A 13th-Century turning point of fishing right and endemic fishtrap (Eri) technology in Lake Biwa, in relation to the role of village communities. In: Kawanabe, H., Coulter, G. W. and Roosevelt, A. C. (eds.) Ancient Lakes: their Cultural and Biological Diversity. Kenobi Productions, Ghent., 147-159.

(5) 研究助成を受けた研究

亀田佳代子（代表）琵琶湖集水域生態系におけるカワウの役割。河川環境財団。

亀田佳代子（集会出席旅費）陸水学と水鳥2000 第三回国際陸水学会水鳥ワーキンググループ大会。井上科学振興財団。

内田臣一（代表）琵琶湖沿岸帯の水性昆虫相と生態。河川環境管理財団。

牧野久美（分担）動物考古学的方法による日本および周辺地域における古代家畜史の研究。文部省科学研究費。

(6) 第2回 琵琶湖博物館研究発表会

開催期日：1999年10月17日（日） 10:30～16:55

会場：琵琶湖博物館ホール

博物館でおこなわれている研究を広く県民に紹介すると共に、博物館の今後の研究の方向性を探

るため、第2回研究発表会を開催した。

「研究法をさぐる」「地域をさぐる」「東アジアの中の琵琶湖をさぐる」と題して5題の研究発表をおこなった。また、総合討論として「博物館に求められる研究とは」と題して岡田玲子（水と文化研究会）、黒田末壽（滋賀県立大学）、篠原 徹（国立歴史民俗博物館）、杉江 進（大津市歴史博物館）ら各氏を招いて博物館の総括学芸員と討論をおこなった。参加者は88名であった。

研究発表タイトル

研究法をさぐる

- ①「博物館と学校連携の教育システムの開発（びわ湖ミュージアムスクール）」

琵琶湖博物館主査 江島 穰

- ②「身近な環境の自分化 ―住民参加の理論と実践を求めて―」

琵琶湖博物館総括学芸員 嘉田由紀子

地域をさぐる

- ①「フィールドレポーターによる身近な環境調査 ―案山子と田んぼの生き物たち―」

琵琶湖博物館フィールドレポーター 前田 雅子

- ②「丸子船はどうしてなくなったか」

琵琶湖博物館学芸技師 牧野 久美

東アジアの中の琵琶湖をさぐる

- ①「東アジアの中の琵琶湖、その時をこえて貫くもの ―総合研究中間報告―」

琵琶湖博物館総括学芸員 中島 経夫

総合討論

「博物館に求められる研究とは」

岡田 玲子（水と文化研究会）

黒田 末壽（滋賀県立大学）

篠原 徹（国立歴史民俗博物館）

杉江 進（大津歴史博物館）

布谷 知夫（琵琶湖博物館）

嘉田由紀子（琵琶湖博物館）

中島 経夫（琵琶湖博物館）



第2回琵琶湖博物館研究発表会の総合討論

(7) 特別研究セミナー

第16回（1999年6月11日（金）） スチュアート・ゲルダー（Stuart Gelder）氏（アメリカ・メーン大学）「ザリガニの皮面につくヒルミミズ（環形動物門，有帯綱）について(The biology of branchiobdellidans (Annelida:Clitellata) or crayfish worms)」

- 第17回 (1999年6月11日(金)) カルマン・モルナー (Kalman Molnar) 氏 (ハンガリー科学アカデミー獣医学研究所) 「養殖池や自然水域における原生動物による魚病について (Protozoan infections of fish in fish ponds and natural waters)」
- 第18回 (1999年8月18日(水)) シング・ハンセン (Signe Hanson) 氏 (アメリカ・ボストン子どもの博物館) 「ボストン子どもの博物館における教育哲学と展示・プログラム開発について (Processes of putting philosophy into exhibits and programs at the Children's Museum, Boston)」
- 第19回 (1999年10月16日(土)) ロバート・G. ウェッツェル (Robert G. Wetzel) 氏 (アメリカ・アラバマ大学) 「沿岸域生態系の3次元的功能 (The functional three-dimensionality of littoral ecosystems)」
- 第20回 (1999年12月3日(金)) 生嶋 功 氏 (千葉大学名誉教授)
「シリーズ・琵琶湖を知るための十の提言 その1:水草研究者からの提言」
- 第21回 (1999年12月18日(土)) チャールズ・R. ゴールドマン (Charles Goldman) 氏 (アメリカ・カリフォルニア大学) 「湖沼とは環境変化の影響と理解を可能にする歴史の貯水池である (Lakes are reservoirs of history for understanding and influencing environmental change)」
- 第22回 (1999年12月21日(火)) 坂本 充 氏 (滋賀県立大学教授・環境科学部長)
「シリーズ・琵琶湖を知るための十の提言 その2:「基礎生産」と「植物の生産」の齟齬」
- 第23回 (2000年1月22日(土)) 田中 晋 氏 (富山大学教授)
「シリーズ・琵琶湖を知るための十の提言 その3:魚類研究者からみた琵琶湖の変化(1)」
- 第24回 (2000年2月12日(土)) 牧 岩男 氏 (大阪教育大学教授)
「シリーズ・琵琶湖を知るための十の提言 その4:
魚類研究者からみた琵琶湖の変化(2) 魚類群集からみた南湖の位置づけ
～琵琶湖生物資源調査団が琵琶湖調査で行った頃を基準に～」
- 第25回 (2000年2月19日(土)) 東 幹夫 氏 (長崎大学教育学部・教授)
「シリーズ・琵琶湖を知るための十の提言 その5:
魚類研究者からみた琵琶湖の変化(3) ～あの頃のアユ、いまの外来移植魚～」
- 第26回 (2000年3月4日(土)) 名越 誠 氏 (奈良女子大学理学部・教授)
「シリーズ・琵琶湖を知るための十の提言 その6:
魚類研究者からみた琵琶湖の変化(4) ～40年間琵琶湖を見て～」
- 第27回 (2000年3月18日(土)) 岡本 巖 氏 (滋賀大学名誉教授)
「シリーズ・琵琶湖を知るための十の提言 その7:びわ湖調査今昔」
- 第28回 (2000年3月22日(水)) ベンテリック・ベングトソン (Bengt-Erik Bengtsson) 氏 (ストックホルム大学) 「魚類・甲殻類の内分泌攪乱～北欧諸国の研究の現状 (Endocrine disruption in fish and crustacea -present research situation in the Nordic countries)」

第29回 (2000年3月16日(木)) マーティエン・ファン・オイジェン (Martien van Oijen) 氏
(オランダ国立自然史博物館)「フォン＝シーボルトと日本：一目惚れ？ (Von Siebold and Japan: Love at First Sight?)」

(8) 研究セミナー

第1回 (1999年5月21日)

- 戸田 孝 「情報提供システムのアクセス記録から見えること」
芦谷美奈子 「水生植物の生長様式とエージングーイヌタヌキモを例として」
芳賀 裕樹 「琵琶湖の透明度の変遷について」

第2回 (1999年6月18日)

- 牧野 厚史 「環境社会学は〈自然〉をどのようにとりあげるのか？」
布谷 知夫 「和泉葛城山ブナ林の結実と定着」
高橋 啓一 「私の研究テーマーいままでわかったこと、これから知りたいこと」

第3回 (1999年7月16日)

- 中島 経夫 「咽頭歯の研究からみた稲作起源」
草加 伸吾 「森林土壌の化学性に及ぼす皆伐の初期影響」
前畑 政善 「ビワコオオナマズの産卵生態 (補遺)」

第4回 (1999年8月20日)

- 八尋 克郎 「東カリマンタン熱帯降雨林における森林火災が各種甲虫類に与えた影響」
楠岡 泰 「ヨシ表面の動物は何をしているの？」
里口 保文 「古琵琶湖層群とほぼ同時代の地層に挟まる火山灰層の広域対比」

第5回 (1999年9月17日)

- 亀田佳代子 「水域と陸域をむすぶカワウの役割 2. 湖から森林への物質移動」
用田 政晴 「湖上交通史の再検討」
内田 臣一 「絶滅のおそれがある日本産カワゲラ類の種とその河川環境」

第6回 (1999年10月15日)

- 宮本 真二 「福井県、蛇ヶ上池湿原における過去14000年間の環境変遷」
牧野 久実 「琴湖と琵琶湖を較べてみると～航路の変化に関する比較研究に向けて～」
桑原 雅之 「ビワマス早期遡上個体の存在」

第7回 (1999年11月19日)

- 橋本 道範 「中世琵琶湖における寺辺殺生禁断の展開」
松田 征也 「木之本町黒田西ぶけ水田におけるマルタニシについて」
中井 克樹 「バス釣りブームの問題点と対策試案」

第8回 (1999年12月17日)

- M. J. Grygier "A new genus of Monstrilloid copepods (Crustacea:Copepoda)"
美濃部 博 「琵琶湖の水位変動の過程と今後の課題」

嘉田由紀子 「所有論からみた環境の利用と保全－日本とアフリカ、アメリカの三文化比較は可能か－」

第9回 (2000年1月21日)

内藤又一郎 「風景写真の立場からみた琵琶湖」

江島 穰 「学校利用のアンケート調査(1)」

中川 修 「学校利用のアンケート調査(2)」

第10回 (2000年2月18日)

桑村 邦彦 「滋賀県に生息するモクズガニの生態学的研究－Ⅰ」

山川千代美 「鮮新－更新統古琵琶湖層群の大型植物化石－その1」

A.Rossiter “The Social System of a Tanganyikan Cichlid Fish”

第11回 (2000年3月17日)

秋山 廣光 「博物館に於ける静止画資料の整理と利用」

中藤 容子 「民具の提供からみた人々と博物館の役割」

横山 泰史 「琵琶湖博物館と小学校の連携」

(9) 研究員の受入れ

- ・辻 彰洋 (文部省特別学術研究員：滋賀県琵琶湖研究所)

1999年4月1日～2000年3月31日「琵琶湖沿岸帯の生態と動態に関する総合研究」

- ・高橋鉄美 (文部省特別学術研究員)

2000年1月1日～2000年3月31日「アフリカ産カワスズメ科魚類の系統分類学的研究」

(10) 海外調査

中島経夫：1999年11月5日～11月21日 中華人民共和国 (湖北省武漢市および湖南省岳陽市) 琵琶湖博物館総合研究「東アジアの中の琵琶湖－コイ科魚類の展開を軸とした－環境史に関する研究」にかかる中国科学院水生生物研究所の収蔵標本の調査および湖北省 (長江)、湖南省 (洞庭湖) の漁撈に関する調査、漁具収集。

高橋啓一：1999年5月13日～5月22日 オランダ (ライデン・ロッテルダム). 2nd International Mammoth Conferenceでの発表。

1999年7月1日～7月14日 台湾 (台北・台中・台南・花蓮など). 琵琶湖博物館総合研究「東アジアの中の琵琶湖－コイ科魚類の展開を軸とした－環境史に関する研究」にかかる化石調査。

中井克樹：1999年7月4日～22日 ロシア連邦 (バイカル湖) 文部省科学研究費創成的基礎研究 (新プロジェクト)「地球環境攪乱下における生物多様性の保全と生命情報の維持管理に関する総合的基礎研究」湖沼研究班 (バイカル湖) 研究協力者として。

(11) 国際交流活動

琵琶湖博物館では、琵琶湖の価値を国際的な比較の視点から明らかにするため、国際交流活動を推進している。また、博物館活動を国際化することで、琵琶湖や滋賀県を広く世界へ発信していくことも目指している。こうした視点から、平成11年度は、以下のような活動を行った。(国際的な研究活動交流については、研究部の該当箇所を参照されたい。)

1) 海外からの研修員の受入れ

- ・任 喜星 (大韓民国全羅南道文化環境局文化芸術課) 1999年7月12日～12月17日
平成11年度自治体職員交流事業 滋賀県協力交流研修員として

2) 海外の博物館との交流

- ・台湾国立自然科学博物館：研究員との共同研究
総合研究に関する台湾での化石調査 (1999年7月1日～7月14日)、2000年度共同研究準備のための国内の長鼻類化石調査 (1999年8月3日～8月17日) (高橋啓一)

3) 琵琶湖に関する国際発信

- ・平成11年度湖沼水質保全コース (Group Training Course in Lake Water Quality Management、ILEC・JICA) における講義担当 2000年2月1日
”Recent Transitions in Ecological Conditions in Lake Biwa” (楠岡 泰)

2 交流・サービス活動

交流・サービス活動は、博物館の研究や資料収集などの成果を多くの利用者に伝え、博物館をうまく利用してもらうことで、博物館と利用者との双方向の情報交換と交流を行う場を作り上げていく活動である。具体的には、観察会やさまざまな講座、フィールドレポーターなどの参加型活動、あるいは学校教育との連携のための教育研修の受入やミュージアムスクールなどさまざまな活動を実施した。

(1) 観察会・見学会等

1999年度は、博物館内およびその周辺で行うミュージアム観察会5件、県内とその周辺で行うフィールド観察会9件、博物館の舞台裏を見学する博物館探検3件の合計16件の行事を開催した。

1) ミュージアム観察会

タイトル	開催日	場所	参加者数(人)
びわ湖の魚は何をたべているか？	7月20日(火・祝)	実習室・烏丸半島	58
ミクロナ生き物探検	7月25日(日)	実習室・烏丸半島	26
回転実験室で水槽実験を！	8月10日(火)	実習室・C展示室	28
びわ湖の貝を調べてみよう	8月22日(日)	実習室・烏丸半島	21
琵琶湖の水鳥アラカルト	2月6日(日)	実習室・烏丸半島	6



フィールド観察会
「回転実験室で水槽実験を！」



フィールド観察会
「びわ湖の魚は何をたべているか？」

2) フィールド観察会

タイトル	開催日	場所	参加者数(人)
春の朽木・いろんな森を調べよう！	4月29日(祝)	朽木村	21
初夏の里山を調べよう！	5月30日(日)	大津市堅田	49
地図をもって調べよう！「マンボ」って何？	6月13日(日)	岐阜県関ヶ原町	25
武奈岳の森を調べよう！	8月8日(日)	志賀町	12
むかしの草津を調べよう！	10月3日(日)	草津駅周辺	1(雨天)
森のキノコを調べてみよう	10月10日(日)	滋賀県森林センター	41

古琵琶湖の化石を調べよう！	10月17日（日）	三重県大山田村	37
ビワマスの産卵を調べよう！	11月7日（日）	マキノ町知内	25
越冬する昆虫を調べよう！	12月12日（日）	信楽町	22



フィールド観察会
「地図をもって調べよう！」



フィールド観察会
「古琵琶湖の化石を調べよう！」

3) 博物館探検

タイトル	開催日	場所	参加者数(人)
屋外の植物展示の舞台裏	5月16日（日）	屋外展示空間	13
歴史展示の舞台裏	11月20日（土）	収蔵庫・企画展示室	5
水族展示の舞台裏	3月12日（日）	水族展示バックヤード	59

(2) 博物館入門セミナー、博物館講座、専門講座

入門セミナーは、琵琶湖博物館の展示や活動の内容について、実際の展示を創ってきた学芸職員が解説をし、参加者に博物館をより親んでもらうためのものであり、水曜コースと土曜コースが選択できる。また、将来博物館の活動に何らかの形で関わって行きたいという方にも、“博物館で何ができるか、何をしたいか”を考えてもらうという狙いもある。1999年度には、前年度に引き続いて「湖をめぐる自然と人間」をテーマに第8期入門セミナーを開催した。

琵琶湖博物館講座は、学芸職員が専門テーマについて分かりやすく解説するものである。専門講座は、ある特定の分野について専門的知識や技術を身につけたい方のための講座であり、教員やアマチュアの研究者を対象としたものである。その詳細は下表に示した。

1) 博物館入門セミナー

第8期：湖をめぐる自然と人間（全7回：定員30名：14:30-17:00）		参加者数(人)
水曜コース	9月7, 21日, 10月5, 19日, 11月3, 9, 16日	11
土曜コース	9月10, 24日, 10月8, 22日, 11月5, 12, 19日	10

2) 博物館講座（連続講座）

タイトル	開催日	場所	参加者数(人)
淡水魚七不思議（講義編）	5月9, 16, 23, 30, 6月6, 13, 20日(日)	セミナー室	11
淡水魚七不思議（実技編）	9月12, 19, 26日(日)	実習室, 野外	18
地層と火山灰	8月7, 14, 21日(土)	実習室	6
咽頭歯からみた地球の歴史	2月19日(土)	セミナー室	10

3) 博物館専門講座

タイトル	開催日	場所	参加者数(人)
植物の分類	10月10, 17, 24, 31日(日)	実習室	13
水生昆虫の同定	3月28(火), 29(水), 30日(土)	実習室	11

(3) 田んぼ体験教室

屋外展示のひとつである田んぼを使った体験教室を開催した。この教室は単なる稲作体験にとどまらず、田んぼのまわりに広がる自然や人の暮らしまで学ぶものである。年間を通して10回開催した。

田んぼ体験教室開催日および内容（登録者11家族35名）

回	開催日	内容
1	5月9日	全体説明・田植え
2	6月20日	田の草取り
3	7月11日	お米の話
4	8月22日	虫の話
5	9月12日	かかしづくり
6	10月3日	稲刈り
7	10月31日	脱穀
8	12月19日	餅つき
9	1月16日	わら細工
10	2月20日	まとめ



田んぼ体験教室
つくったお米で餅つき

(4) 質問コーナー・フロアトーク

当館では開館当初から情報センターの一角に、質問コーナーを設け、館長をはじめ、学芸員が来館者や電話による質問に回答している。1999年度には総計760件の（2.6件／日）の質問が寄せられた。また、当日担当の学芸員は午後2時から展示室（あるいは屋外展示）に立ち、展示内容や展示品等の解説を行うフロアトークを実施した。

質問コーナーでの質問データ集計表

期 間	1999年4月1日～2000年3月31日（297日間）				
総質問数	760件				
質問内容	一般的な質問（総合案内で回答できるようなもの）			16件	
	専門的な質問			744件	
対 応	担当学芸員が対応			568件	
	専門（または外部）学芸員に依頼			192件	
専門的な質問の内容の内訳					
生 物	動 物	水 族（魚） 水 生 生 物	175件 61件	プランクトン 動 物 一 般	8件 25件
	植 物	陸 上 植 物 水 草			28件 20件
地 学	71件		図 書	47件	
物 理	0件		琵琶湖	50件	
歴 民	61件		環 境	19件	
博 物 館	49件		その他の質問	130件	

(5) 教職員等研修会

1999年度に行われた教職員等研修は、合計77件（参加者総数2659人）であった。こうした研修会では、当館学芸員が展示概要や設置意図の説明のみならず、教育機関がどのように博物館を利用できるかについても解説を行った。また展示内容に関わる実験実習も行った。

No.	月 日	研 修 会 の 内 容	参加者数(人)
1	4月 9日	草津市職員研修所新規採用職員研修	300
2	4月27日	エコ草津探検隊会議	30
3	5月 7日	三重県環境政策課視察	4
4	5月14日	守山市教育委員会視察	11
5	6月12日	自治大学派遣職員研修講座	3
6	6月16日	名古屋市高校理科教員研修講座	25
7	6月22日	中主町教育委員会視察	8
8	6月23日	滋賀県理科実習助手研修	23
9	6月29日	和泉市中学校理科研究部会研修	60
10	7月 1日	栗東町教育研究会生活科部会研修	16
11	7月 2日	アメリカ合衆国ミシガン州高校生研修	25
12	7月 6日	福井県教育庁文化課研修	4
13	7月 8日	常盤小学校PTA研修	20
14		三重県教育委員会生涯学習課研修	20

15	7月9日	教育センター主任主事研修	17
16	7月13日	滋賀県湖南高等学校初任者研修	13
17	7月16日	神戸市六甲アイランド高等学校研修	85
18	7月23日	株式会社環境デザイン研究所調査	4
19	7月24日	株式会社環境デザイン研究所調査	4
20	7月26日	滋賀県中学校教育研究会理科部会研修	20
21		守山市中学校教育研究会理科部会研修	6
22	8月3日	今津町教育委員会研修	32
23	8月5日	埼玉県教育センター視察	2
24		滋賀県中学校教育研究会理科部会自然調査	40
25	8月7日	法政大学社会学部助教授視察	2
26	8月10日	朝日新聞社主催講演	300
27	8月11日	博物館実習	2
28		北九州市環境局視察	11
29	8月12日	草津市教員初任者研修	28
30	8月25日	兵庫県市島町養護教諭研修	33
31	8月26日	大阪南高等学校研修	10
32		甲賀郡小学校理科部会研修	25
33	9月10日	石部高等学校発表会	10
34	9月18日	石部高等学校発表会	10
35	9月21日	教育センター環境教育講座	55
36	9月30日	宇治高等学校研修	44
37	10月5日	彦根西高等学校研修	42
38	10月7日	教育センター教職経験者研修	70
39	10月8日	教育センター教職経験者研修	70
40	10月12日	教育センター教職経験者研修	70
41	10月14日	高知工業高等専門学校研修	48
42	10月15日	刀根山養護学校研修	18
43	10月19日	甲賀郡中学校理科部会研修	8
44	10月20日	京都市右京区保健協議会研修	100
45		奈良県磯城郡教育研究会社会科部会研修	10
46	10月23日	吉身小学校PTA研修	105
47	10月26日	教育センター教職経験者研修	70
48		近畿生徒指導主事研修	32
49	10月28日	近畿地区私立中学校高等学校研修	60
50		大阪城南女子短期大学研修	125
51	11月2日	愛知県名瀬地区高等学校社会科教員研修	40
52	11月3日	群馬県埋蔵文化財調査事業団視察	5
53	11月10日	横浜市立寺尾中学校視察	2
54	11月18日	坂田郡中学校理科部会研修	6
55	11月19日	静岡県榛原郡中学校長会研修	24

56		愛知県高等学校理科教員研修	4 5
57	1 1 月 2 0 日	文部省教科書課視察	2
58	1 1 月 2 6 日	近畿農政局統計専門職員研修	2 0
59		滋賀大学附属中学校研修	8
60	1 1 月 2 8 日	ミシガン州ポンティアック市教員視察	8
61	1 1 月 3 0 日	岐阜県立岐山高等学校理科研修	8 4
62		大津市環境教育部会研修	1 0
63	1 2 月 2 日	河川情報センター視察	1
64	1 2 月 3 日	熊本高等学校研修	1 2 0
65	1 月 1 2 日	島根県教育庁生涯学習課視察	6
66	1 月 1 4 日	近畿高等学校校長会研修	6 0
67	1 月 2 0 日	文部省教科書課視察	2
68	2 月 4 日	鳥取県生活環境部視察	4
69	2 月 8 日	京都市栗田小学校研修	4 0
70	2 月 1 8 日	枚方市山田中学校研修	1 8
71	2 月 2 0 日	北海道教育委員会生涯学習課研修	6
72	2 月 2 2 日	神戸女子短期大学教員視察	5
73	3 月 2 2 日	品川歴史館視察対応	1
74		松原市立天海小学校視察	4
75		東京大学職員視察	2
76	3 月 2 4 日	学習院大学職員視察	3
77		北海道開拓記念館調査	3
合計			7 7 件
			2, 6 5 9 人



教職経験者研修での草木染めの実習

(6) 博物館体験学習

博物館と学校とが連携を保ちながら活動を進めていくことができるよう、学校のカリキュラムに沿った社会見学への対応のほか、フローティングスクールやエコ草津、校外学習の受入を行った。特に、体験学習として下記のような活動を実習室、セミナー室、生活実験工房等を利用して行った。

校種	主な活動内容
小学校	ヨシ笛、化石のレプリカ、水質検査、プランクトン採集と観察、昔のくらし体験、わら細工、餅つき、魚の解剖、水草のパウチ、魚のプラ板、大地のつくり
中学校	水質検査、プランクトンの採集と観察、化石のレプリカ、魚の採集と解剖、ヨシ笛、化石のクリーニング、わら細工、岩絵の具
高等学校	土壌の吸着実験、水質検査、プランクトンの採集と観察、魚、貝の解剖

校種	活動学校数	活動人数(人)
小学校	95	5,612
中学校	43	1,763
高等学校	25	1,661
合計	163	9,036

(7) 「びわ湖・ミュージアムスクール」モデル事業

このモデル事業は、学校のカリキュラムと連携を保ちながら琵琶湖博物館のテーマである「湖と人間」を考える総合的な学習（環境学習）をめざしている。積極的な博物館利用をめざして、博物館を体験的な学習の場として提供し、児童・生徒の探究活動を支援することを目的として、体験学習を組み込んだ学習プログラムを学校に提供しようとするものである。この「びわ湖・ミュージアムスクール」は、従来の半日～1日の校外学習を一層発展させ、事前学習～博物館体験学習～事後学習（この間少なくとも1ヶ月から3ヶ月）という一貫した流れの中で、博物館のテーマに沿って体験学習をするものである。特に、児童・生徒は、博物館でテーマ探しを行うことを出発点として学校で学習したり、地域で学習したりする。その後、一連の学習をまとめて発表会を開き、活動に関わりをもった学芸職員が講評するものである。活動の結果よりも活動プロセスを重視し、学芸職員と学校の教師の間で交流が深まるように企画した。モデル校として、草津市立常盤小学校、大津市立真野中学校、滋賀県立石部高等学校の3校で実施した。

事業のまとめとして、「びわ湖・ミュージアムスクール活用集」を作り、各学校に配布した。

・小学校の部（草津市立常盤小学校5年 76人）

5年生の理科学習に位置づけて身近な生き物を調べるプログラムを実施した。児童の探究活動は、「プランクトン」「水草」「貝」「魚のうろこ」など、10のテーマに分かれて児童の発想を生かした活動ができた。また、地域の人から、昔の生き物の様子について話を聞いた。活動内容を常盤小のホームページに載せた。

・中学校の部（大津市立真野中学校1年 254人）

1年生の理科・社会・特別活動に位置づけて、校外学習型を発展させたプログラムを実施した。「身近な水を調べてみませんか」「琵琶湖の漁業について調べてみませんか」「川と水害」「丸子船について調べてみませんか」など12のテーマを設定し、小グループでテーマ選択して学習することができた。

・高等学校の部（県立石部高等学校 3年 12人）

理科のその他科目・「琵琶湖と環境」の「琵琶湖探究」という科目に位置づけ、夏休みに延べ5日間の実習（船上実習含む）を設定した。「プランクトンの分類」「魚・貝の解剖」「船を利用した琵琶湖の調査」など6つのテーマを設定した。



「びわ湖・ミュージアムスクール」での船を利用した琵琶湖の調査



身近な生き物を調べる

(8) 体験学習プログラムの開発

効果的な展示見学を行うためのワークシートの作成、理科・社会科等の教科学習を支援するプログラムを開発した。

(9) 「体験学習の日」の活動

学校週5日制に対応する事業として、毎月第2・4週の土曜日に当館を訪れる小・中学生を対象に自然・環境・歴史・民俗への興味や関心を高めるための活動を行った。午後1:30～3:00の実施。合計936名の参加があった。

回	月 日	体験学習の内容	参加人数（人）
1	4月10日	春を感じてみよう	34
2	4月24日		32
3	5月 8日	琵琶湖のプランクトンをみよう	32
4	5月22日		22
5	7月10日	標本を作ろう（植物標本）	36
6	7月24日	標本を作ろう（動物標本）	49
7	10月 9日	ヨシ紙を作ろう	153
8	10月23日		114
9	11月13日	木の実で遊ぼう	29
10	11月27日		49
11	12月11日	鏡餅をつくろう	149
12	1月 8日	化石に親しもう	33
13	1月22日		45
14	2月12日	わら細工で楽しもう	23
15	2月26日		45
16	3月11日	ヨシ笛をつくろう	51
17	3月25日		40

(10) びわ湖学習 2 1 プラン

琵琶湖の日（7月1日）の関連事業として、8月までの土、日曜日を中心に、当館を訪れる小中学生を対象に、魅力あるテーマで観察や実験を行い、自然・環境・歴史・民俗への興味や関心を高める活動を実施した。

回	月 日	体験学習の内容	参加人数（人）
1	7月 4日	わら細工を作ろう	36
2	7月10日	水族舞台裏通り抜け	351
3	7月18日	プランクトンをみよう	60

(11) 水族展示交流活動

水族館展示・トンネル水槽において潜水者（飼育係員）と展示交流員が水中マイクを使って会話をしながら解説や実験を行う展示交流を実施した（15回）。また、水族飼育係員による、古代魚水槽での説明も行った（16回）。秋からはカエルの給餌の実演も開始した（10回）。そのほか、水族展示を巡りながら、魚に関するクイズに答える「水族展示探検クイズ」と、滋賀県内の淡水魚を各月一種類ごとを紹介する「今月の魚」（A4サイズ両面刷り）の配布を行った。

(12) フィールドレポーター

フィールドレポーターとは県内を中心に、身近な生き物や生活に関する情報を定期的に報告してもらい、得られた情報を博物館の資料として保存し、展示や交流の中で活かしていくとともに、情報とおして博物館とレポーター同士をつなぐ制度である。この制度は1997年度からスタートし、1999年度は125名の登録者があった。

活動として、博物館とフィールドレポーターが相談してテーマを決め、調査する年3回のアンケート調査と、自由な内容で身近な情報を随時報告する自由回答調査の2種類を実施した。レポーターからの情報は「フィールドレポーター便り」としてとりまとめ、年3回の「フィールドレポーター交流会」においてとりまとめ、結果の報告を行った。また、レポーターの中から可能な人には、情報のとりまとめ、活動の企画、交流会の開催などに参加してもらっている。

調査・活動実績

調 査 内 容	実施月	報告数（件）
1) 田んぼの生きもの調査	4～6	300
2) 地蔵盆とお地蔵さん調査	8～9	147
3) カマキリの卵のう調査	12～1	107
5) 自由型調査（フィールドレポーター掲示板）	通年	92
活 動 内 容	実施月	回 数
フィールドレポーター便りの発行	10・1・3	3
フィールドレポーター掲示板の発行	4・6・10・1	4
フィールドレポーター交流会	8・12・3	3

(13) 夏休み相談室

子どもたちの自然や地域に対する自主的な探究心を養うため、研究テーマ選びから集めた標本の同定まで、自由な研究の支援を行う目的で夏休み相談室を開催した。1999年は8月28日（土）、29日（日）の両日実施した。

夏休み相談室分野別相談件数

	植 物	昆 虫	地 学	魚	水 質 環 境	プラン クトン	他脊椎 動 物	貝	両生類 は虫類	総 合 相 談	合 計 (件数)
8月28日(土)	9	13	12	3	2	2	2	3	1	0	47
8月29日(日)	10	5	2	3	3	2	2	1	1	2	31
合 計	19	18	14	6	5	4	4	4	2	2	78



夏 休 み 相 談 室

(14) (仮称) 博物館ボランティア制度の検討

琵琶湖博物館の基本理念の一つである「交流の場としての博物館」を実現するために、さまざまな経験や知識を持った方々が博物館に集い、情報を交換し、館と共に博物館をつくっていく必要がある。

これを可能にするために琵琶湖博物館では自発的・主体的に博物館活動に参加し、自らも学びながら、博物館と共に成長して行こうとする方々の集まり、(仮称) 琵琶湖博物館ボランティアの検討を行ってきた。1999年度は2000年度からの運用にむけて、名称の検討を含めて環境の整備を進めた。

(15) 博物館実習（期間：1999年8月2日(月)～8月13日(月)）

国内14大学の学生29名を対象に、琵琶湖博物館の基本理念および活動方針と、それにもとづく交流サービス、情報、資料整備、展示等の活動について講義・実習を行った。特に、交流の場としての博物館の活動を理解してもらうため、来館者との交流の担い手となる展示交流員体験や、利用者とともに常に成長・発展するための博物館評価として来館者反応調査の実習も行った。博物館活動の基本的考え方の理解を確認し、学生と学芸職員との意見交換を行うため、最終日にはディスカバリーボックスの企画とその成果発表会を開催した。実習の日程および内容、参加者内訳は、下に示したとおりである。

なお、7日間以上実習が必要な学生2名に対しては、実習期間を延長して10日間の実習を行った。

実習の日程および内容

月日(曜日)	実習内容(午前)	実習内容(午後)
8月2日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 全体オリエンテーション 博物館とはなにか？ 	<ul style="list-style-type: none"> 琵琶湖博物館の設置理念と概要 館内・屋外展示案内
8月3日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 展示の概要説明 A・B展示室見学 	<ul style="list-style-type: none"> C展示室見学 ディスカバリールーム見学 ディスカバリーボックス企画ガイダンス
8月4日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 接遇研修 展示交流員体験 	<ul style="list-style-type: none"> 展示交流員体験
8月5日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 収蔵庫見学 水族バックヤード見学 生物標本整理 	<ul style="list-style-type: none"> 燻蒸庫整理 地学標本整理 民俗資料整理
8月6日(金)	休 日	
8月7日(土)	<ul style="list-style-type: none"> 交流活動概要説明 来館者質問の分析 	<ul style="list-style-type: none"> 情報活動概要説明 図書資料整理
8月8日(日)	<ul style="list-style-type: none"> 来館者反応調査 	<ul style="list-style-type: none"> 調査結果のまとめおよび発表
8月9日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ディスカバリーボックス企画案作成 	<ul style="list-style-type: none"> 実習成果発表会 修了式

参加者内訳

所 属	人 数	所 属	人 数
滋賀県立大学	4	帝塚山大学	2
成安造形大学	5	愛知県立芸術大学	1
京都教育大学	2	名城大学	1
京都府立大学	2	東海大学	1
京都橘女子大学	6	九州大学	1
大阪学院大学	1	九州東海大学	1
神戸芸術工科大学	1	西南学院大学	1
		合 計	29

(16) ワークショップ、シンポジウムおよび講演会等の開催

- 開館3周年記念講演「地球、水の旅」

期日：1999年11月14日(日)

開館3周年を記念して、作家の椎名誠氏の「地球、水の旅」と題する、30年前の琵琶湖のキャンプの思い出やタクラマカン砂漠の幻のロプノール湖の雄大で神秘的な自然、極寒のバイカル湖の想像を絶する厳しさなどの講演会を行った。

講演会に引き続いて、館長との館長対談をおこなった。



椎名誠氏と館長との対談

・「博物館を評価する視点」

期日：2000年2月24日(木)～27日(日)

博物館利用者の目で博物館を評価する重要性が増してきたことを受けて、「博物館からのメッセージが伝わっているか」「何のために評価するのか」「結果をどう受けとめるか」「それをどのように生かしていくのか」ということをワークショップとシンポジウムを通して探った。

海外からの招聘講演者としてブライアン・マクラレン氏（コロラド大学自然史博物館）、ミンダ・ポーラン氏（フランクリン科学博物館）、ロス・J・ルーミス氏（コロラド州立大学心理学部）を招いた。

ワークショップは、定員30名でおこなったが、シンポジウムには約200名の全国からの参加者があり活発な議論も行われた。



シンポジウム「博物館を評価する視点」
展示室におけるワークショップ

3 情報活動

最新のハードウェアとソフトウェアを活用し、“博情報館”として機能できる基本情報システムの構築を目指している。そのため来館者向け閲覧用図書の新規整備や映像情報のデジタル化ならびに研究支援を図りながら、地図情報や文字情報と合わせて検索や利用を可能にするとともに、通信網を通じて博物館利用者や類似施設とのネットワーク化を図ることに努めた。

(1) 館内の情報センター（図書情報利用室）

館内の図書室と情報利用室を来館者が自由に利用できるように整備している。来館者の立場からすれば、文献資料・電子資料とも疑問解決のための「調べごと」の手段という意味では同じであるという考えに基づき、両室を隣接させて互いに往来できるように設置し、かつ利用案内カウンターを共通にすることによって、一体化して運営している。

・図書室

単行本、約5,500冊および雑誌、約50タイトルを開架式で提供し、要望に応じて閉架式資料も提供した。

・情報利用室

情報端末を利用者自身が操作することにより、常設展示室のマルチメディア資料のほか情報利用室専用の長時間番組や博物館資料の検索プログラムが利用できるようにしている。

(2) 通信網を利用した館外サービス

・ファックス情報提供サービス

各家庭のファックスから電話回線で接続して操作することにより、展示案内・行事案内・交通案内などの情報を受信することができる。1999年度利用状況は以下の通りである。

ファックス情報提供サービスへのアクセス件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総アクセス数	76	104	61	105	199	59	43	25	21	32	31	60
目次アクセス件数	32	35	31	41	87	25	16	14	9	16	10	28

総アクセス数：サーバーから情報が取り出された件数

目次アクセス数：「総アクセス数」のうち、目次ページへのアクセス件数（通常、目次ページで目的とする情報の所在を確認した後、改めてサーバーに接続してその情報を取り出す。）

・電子交流ネットワークシステム（LBMNET）

博物館が一方的に情報を提供するというものでなく、博物館職員と一般県民を含む多様な立場の参加者が、博物館のテーマに沿った内容について自由に情報発信を行う場を実現するため、電子交流システムの運営を進めている。

既に、1998年10月13日より、パソコン通信の技術を利用した電子掲示板システムを一般公開すると

いう形での運営を開始しているが、1999年11月29日より、インターネットからこの電子掲示板にアクセスできるシステムの運用を開始した。

・インターネット・ページ（ホームページ）

インターネットを經由して博物館に接続することにより、展示案内・行事案内・交通案内などの情報を受信したり、博物館資料の検索を行ったりすることができる。また、インターネット・メールで専門的な内容についての質問を受け付けており、このメールの宛先もホームページで案内している。1999年度の利用状況は以下の通りであった。

インターネットページ（静的サーバー）へのアクセス件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総ヒット数	88,388	106,571	100,400	140,627	154,153	126,634	152,103	135,333	101,889	150,532	219,499	180,285
連続アクセス	3,798	4,170	3,982	5,698	6,689	5,530	6,506	6,600	5,737	7,680	9,382	9,666
表紙アクセス	607	724	657	776	924	879	874	741	548	779	1,207	860

- ・総ヒット数：サーバに対するすべての種類のデータ要求の総数（但し、博物館内部からの要求は除外）。各ページの定義ファイルはもちろん、ページを構成する画像ファイルの要求も含まれる。
- ・連続アクセス：同一利用者が概ね1時間以内に再度アクセスしたと思われるものは、合わせて1件と数えた場合のアクセス件数（博物館内部からのアクセスは除外）。
- ・表紙アクセス「連続アクセス」のうち、ウェルカムページ（表紙ページ）を經由したアクセス件数
- * 「エリア・キャッシュ」を利用して利用者側の組織内で情報を再利用している場合は、合わせて1件しか計数されない。
- * 動的サーバ（データベース検索やLBMNETなど、利用者からの反応に応じて異なる情報を提供するサーバ）のアクセス数は計数していない。

[インターネットページで案内している宛先へのメール受付状況]

全部で137通のメール（以前のメールに対する回答などを除く）があり、情報センター担当者またはメール内容に応じた学芸職員が回答した。回答は原則として電子メールによったが、内容に応じて電話連絡によったり、資料送付をもって回答に替えたりしたものもある。メールの内容は以下のようなものであった。

内 容	件 数
ホームページ内容についての意見・感想など	2 通
リンク許可依頼など	3 6 通
展示内容についての意見・感想	4 通
来館・料金などについての問い合わせ	7 通
博物館の出版物についての問い合わせ	3 通
行事など交流・サービス事業についての問い合わせ	4 通
専門的内容についての問い合わせ	5 7 通
撮影・掲載などの許可依頼	7 通
博物館への就職・仕事内容についての問い合わせ	1 1 通
学芸員実習についての問い合わせ	2 通
組織・予算・入館者数についての問い合わせ	4 通

(3) 資料整備

以上のような活動の前提となる資料収集のうち、情報活動との関連が特に密接な図書文献資料および映像資料について、以下のとおり整備した。

1) 図書文献資料

(ア) 図書

(単位：冊)

区 分	平成10年度までの合計	平成11年度実績	合 計
購 入 図 書	16,292	760	17,052
寄 贈 図 書	4,219	1,897	6,116
データ入力済図書	22,459	3,341	25,800
データ入力済文献	21,666	2,280	23,946

(イ) 所蔵雑誌 (タイトル数)

(単位：件)

区 分	タイトル数	合 計
和 雑 誌	736	1,286
外 国 雑 誌	328	
大学刊行雑誌	222	

2) 映像資料

(単位：点)

区 分	平成10年度までの合計	平成11年度実績	合 計
動 画 資 料	432	15	447
静 止 画 資 料	63,427	2,194	65,621
(合 計)	63,859	2,209	66,068
C D 入 力 点 数	63,063	1,591	64,654

3) 映像資料の貸出し

1999年4月1日～2000年3月31日までの利用状況は、65件で内訳は以下の通りである。

年月日	貸し出し先および点数
2000. 4. 6	(株) 海の中道海洋生態科学館 魚類写真1点 他館展示補助
4. 9	滋賀民報社 魚類写真2点
4.19	(株) 山と溪谷社 魚類写真36点
4.21	滋賀県琵琶湖環境部自然保護課 魚類写真4点
4.23	(財) 琵琶湖・淀川水質保全協会 寄託資料 (前野・中島・古谷コレクション) 9点
4.27	滋賀県水産試験場 スライド映写用魚類写真52点
5. 8	滋賀民報社 両生類写真2点
5.10	ほーむめいどあさひ 魚類化石2点、漁労写真1点
5.18	アサヒファミリーニュース社 魚類写真1点

5.24	BBCサービス 魚類写真3点
6.10	産経新聞社大津支局 魚類写真8点
6.11	京都新聞 甲殻類写真1点、風景写真1点
6.23	古高町自治会 寄託資料(藤村コレクション)18点
7.1	前野喜久代 著作権者利用、CD35点、カラーポジ905点
7.1	日本テレビ放送網株式会社 音1点
7.1	滋賀大学教育学部付属環境教育湖沼実習センター 寄託資料(前野コレクション)2点、デジタル対応
7.1	(財)琵琶湖・淀川水質保全機構 魚類1点
7.1	(株)DNPメディアクリエイト関西 魚類写真8点 ホームページコピー
7.6	大津市歴史博物館 民俗文化財写真1点(中藤担当) 他館展示補助
7.19	久御山町 魚類写真22点 デジタルデータ貸代 他館展示補助
7.30	びわ町立図書館 寄託資料(前野コレクション)パネル18点 他館展示補助
8.16	淡海環境保全財団 魚類写真9点 デジタル対応
8.26	大津市歴史博物館 寄託資料(前野コレクション)1点
8.26	瀬田商工会 魚類写真11点 他館展示補助
9.4	新学社 魚類写真8点
9.4	ナショナルジオグラフィック 寄託資料(藤村コレクション)1点
9.10	(財)滋賀総合研究所 寄託資料(前野コレクション)1点
10.5	産経新聞 魚類写真8点
10.5	明富中学校 寄託資料(藤村コレクション) 他館展示補助
10.13	近江八幡市 魚類写真11点
10.13	前野喜久代 寄託資料(前野コレクション)10点
10.13	生駒市役所 魚類写真9点 他館展示補助
10.23	守山市埋蔵文化財センター 魚類写真1点
11.2	守山市埋蔵文化財センター 魚類写真1点
11.5	岩波書店 寄贈資料(前野・古谷・谷本コレクション)
11.11	新学社 魚類写真12点、両生類1点
11.27	野口清英 寄託資料(藤村コレクション)12点
12.5	中日新聞社 魚類写真2点
12.24	滋賀県商工労働部新産業振興課 魚類写真7点
12.24	(財)滋賀総合研究所 災害写真1点
12.24	新興出版社啓林館 魚類写真1点
12.24	大阪狭山市教育委員会 魚類写真1点、甲殻類写真1点
12.24	小学館 瀬田唐橋模型写真1点
12.26	京都精華大学 前野コレクションより3点
2000.1.7	アルブル 魚類写真5点 他館展示補助
1.10	水産振興協会 魚類写真7点

1.13	朝日新聞草津支局 魚類写真9点
1.18	中京テレビ 貝類写真1点
1.20	滋賀県農水部水産課 漁業写真7点
1.29	滋賀県環境政策課 魚類写真など12点
1.31	琵琶湖・淀川水質保全機構 魚類・貝類写真9点
2. 3	産経新聞大津支局 魚類写真など8点
2. 4	インパクト 前野コレクションより5点
2. 8	日経ECO21 魚類写真3点
2.10	滋賀県自然保護課 魚類写真63点
2.28	滋賀県漁連 魚類写真43点
3. 6	朝日新聞大津支局 前野コレクションより2点
3. 6	守山市役所 魚類写真11点
3.10	東京書籍 魚類写真など4点
3.10	滋賀県雇用対策協会 魚類写真など6点
3.16	(財) 滋賀総合研究所 前野コレクションより1点
3.16	東京書籍 甲殻類写真1点
3.22	滋賀県農政部水産課 魚類写真1点

(4) 情報システムの構築

1999年度は、以下のような追加整備を行った。

《機器の更新》

開館以前に導入して、磨耗の著しい機器や時代の変化に対応できなくなっている機器を更新するため、以下の機器を購入した。

・ファイルサーバ	MacintoshServer with AppleShareIP	2台
・画像情報入力端末	PowerMacintosh G4 M7826J/A	1台
・画像情報入力端末	PowerBook G3 MJ7630J/A	1台
・画像情報検索端末	NEC98MateNX MA60J/M7DMDF5	1台
・情報利用室用ディスプレイ装置	Panasonic TM-2935FH	2台
・画像情報プリンタ	Canon LBP-2260PS	1台

《ソフトウェアの追加開発》

情報システムで運用しているソフトウェアについて、実際に運用を進めていく中で明らかになった不十分な面への対応、あるいは開館後の資料整理作業の進捗に応じて新たに可能となったサービスを実現するため、以下の内容でソフトウェアシステムの追加開発を行った。

- ・電子交流ネットワークシステムのインターネット対応
- ・データベースシステムの入力特権設定対応
- ・地理情報活用基本システム

4 資料整備活動

琵琶湖博物館で資料整備の対象領域としているのは、「琵琶湖とその集水域および淀川流域」およびその全体的評価にかかわるもの、ならびに博物館のテーマ「湖と人間」に関係する日本、アジア、世界の湖沼とその周辺地域におよぶものである。自然、人文、社会科学等にかかわる過去から現在までの実物の資料、生魚などの水族資料、映像資料、図書資料および博物館業務に必要な資料について収集・整理・保管および利用を図り、博物館活動の充実につとめている。

収集は、博物館職員による採集、受贈、受託、交換、購入、製作、提供、参加型調査等によって行われ、収蔵資料は必要なときに速やかに利用できるよう、各資料区分ごとの体系にしたがって整理し、長期間にわたり安全で良好な状態に保てるよう保管している。さらに収蔵資料は、保存に影響を与えない範囲で、展示、閲覧および貸出等に利用している。

以下に1999年度の資料整備について項目ごとにまとめる（映像資料、図書資料は除く）。

(1) 収蔵資料

1999年度末現在の収蔵資料点数を分野ごとに示す。

登録資料数とは、琵琶湖博物館情報システムの資料データベースに登録されているものの総数をいい、収蔵概数とはさまざまな段階の未整理資料の概数である。

【地 学】

1) 地学標本

	登録資料数	収蔵概数	備 考
化石	13,000点	18,000点	植物、無脊椎動物、魚類、その他脊椎動物、生痕化石など
岩石・鉱物	2,151点	2,400点	
堆積物	18点	1,500点	ボーリング、はぎ取り、火山灰など
プレパラート	8点	500点	
小 計	15,177点	22,400点	

【植 物】

1) 植物標本

	登録資料数	収蔵概数	備 考
さく葉標本	27,200点	139,300点	
水草樹脂包埋	0点	57点	
小 計	27,200点	139,357点	

【動物】

1) 動物標本（液浸標本を除く）

	登録資料数	収蔵概数	備 考
昆 虫 類	6,440点	49,600点	トンボ類、オサムシ類など
貝 類	0点	9,000点	
骨 格 標 本	0点	100点	
剥 製 な ど	0点	87点	
魚類樹脂包埋	0点	10点	
小 計	6,440点	58,797点	

2) 液浸標本

	登録資料数	収蔵概数	備 考
魚 類	19,376点	52,000点	ホルマリン、アルコール両方含む
水 生 昆 虫	0点	23,000点	アルコール標本
貝 類	3,600点	6,000点	アルコール標本
甲 殻 類 な ど	0点	2,500点	アルコール標本
プ ラ ン ク ト ン	0点	300点	ホルマリン標本
植 物	0点	607点	アルコール標本
両生・爬虫類	0点	150点	アルコール標本
土壌等調査資料	0点	500点	
小 計	22,976点	85,057点	

【歴史・民俗】

1) 考古資料

	登録資料数	収蔵概数 (コンテナ数)	備 考
県内遺跡出土品	0点	1,319点	松原内湖、唐橋、葛籠尾湖底、中畑、粟津
ガリラヤ湖関係出土品	0点	3点	
小 計	0点	1,322点	

2) 民俗資料

	登録資料数*	収蔵概数	備 考
県内の生活・生業用具	3,970件	6,600点	琵琶湖水系の漁撈用具を含む
県内木造船模型	0件	22点	
外国の湖沼の船	0件	4点	
小 計	3,970件	6,626点	

*旧登録データベースによる

3) 歴史資料

	登録資料数	収蔵概数
古文書等	0件	134件

【環境】

1) 環境資料

	登録資料数	収蔵概数	備考
体験学習用民具	0件	504件	
展示用生活用具	0件	25件	
水環境調査資料	0件	72件	環境絵馬カードなど
小計	0件	601件	

【水族資料】

	登録資料数	収蔵概数	備考
水族資料	—	18,000尾	生体

【収蔵資料まとめ】

	登録資料数	収蔵概数
地学	15,177	22,400
植物	27,200	139,357
動物	29,416	144,354
歴史・民俗	3,970	7,948
環境	—	601
水族資料	—	18,000
合計	75,763	332,660

(2) 新規収集資料

1999年度には以下のとおり資料収集が行われた。

・寄贈

【植物】 植物さく葉標本 約3,000点 北川良也（浅井町）

【動物】 昆虫標本（コガネムシ科、オサムシ科など） 116点 野原章宏（大阪府守口市）

魚類標本（スナヤツメ） 2点 土井敏男（神戸市）

骨格標本（エゾジカ、ヒグマ） 8点 松井 信（草津市）

・寄託

【動物】 昆虫標本（オサムシ類、ゴミムシ類など） 2,952点 藤本勝行（大津市）

・提 供

- 【動物】 貝殻標本 16種24点 菱田嘉一（京都市）
 【民俗】 知内地曳網漁関係用具 83点 古川久克（マキノ町）
 民具（サザエガラ、藁製品） 7点 株式会社びわ湖パレイ
 カジ、ロー、土師皿 3点 浦崎亦幸（湖北町）
 漁具（ドンベ、ハリカゴ、漁網など） 29点 磯田漁業協同組合

・購 入

- 【地学】 岩石 27点
 化石 2点
 【動物】 動物標本 昆虫類（乾燥） 46点
 【民俗】 ガリラヤ湖古代船模型 1点

・水族繁殖魚類

1999年度主な繁殖魚類

	学 名	(尾)
日 本 産		
コイ科		
ミヤコタナゴ	<i>Tanakia tanago</i>	70
ゼニタナゴ	<i>Acheilognathus typus</i>	262
タナゴ	<i>Acheilognathus melanogaster</i>	44
アカヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira</i> subsp. R	60
シロヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira tabira</i>	80
イチモンジタナゴ	<i>Acheilognathus cyanostigma</i>	24
スイゲンゼニタナゴ	<i>Rhodeus sinensis suigensis</i>	42
カゼトゲタナゴ	<i>Rhodeus sinensis atremius</i>	73
ニッポンバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus smithi</i>	1000
ヒナモロコ	<i>Aphyocypris chinensis</i>	315
ウシモツゴ	<i>Pseudorasbora pumira</i> subsp.	676
ホンモロコ	<i>Gnathopogon caeruleus</i>	133
メダカ科		
メダカ	<i>Oryzias latipes</i>	30
トゲウオ科		
ハリヨ	<i>Gasterosteus microcephalus</i>	170
ムサシトミヨ	<i>Pungitius pungitius</i> subsp.	158
スズキ科		
オヤニラミ	<i>Coreoperca kawamebari</i>	95
ハゼ科		
アオバラヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i> sp. BB	211

外国産		
コイ科		
カラヒガイ	<i>Sarcocheilichthys sinensis sinensis</i>	174
コウライハス	<i>Opsariichthys bidens</i>	217
ヘミクルター レイキスクルス	<i>Hemiculter leucisculus</i>	94
オオタナゴ	<i>Acheilognathus macropterus</i>	242
ノーザンファットヘッドミノー	<i>Pimephales promelas promelas</i>	599
カワスズメ科		
ネオランププロログスレウピー	<i>Neolamprologus leleupi</i>	50
サンフィッシュ科		
ロングイヤーサンフィッシュ	<i>Lepomis mogalotis peltastes</i>	350
パンプキンシード	<i>Lepomis gibbosus</i>	150



ニッポンバラタナゴ



ヒナモロコ

(3) 燻 蒸

資料に付着する害虫（成虫・卵・蛹）およびカビ等、資料を保存する上で、有害な生物の殺虫防除を目的に、収蔵庫燻蒸および燻蒸庫燻蒸を以下のとおり行った。また、平成11年度には小型燻蒸庫を設置し、平成12年度からの本格的な運用に備え利用規程も整備した。

・収蔵庫燻蒸

実施日 1999年12月6～8日

対象 植物収蔵庫、民俗収蔵庫1・2、一時保管庫

・燻蒸庫燻蒸

実施日 1999年7月5～7日、8月3～5日、11月9～11日、2000年3月6～8日

対象 植物さく葉標本、民俗資料、昆虫標本、骨格標本、鳥類剥製など

(4) 資料の貸出

1999年度には、以下のとおり資料の貸出を行った。

貸 出 資 料	貸 出 先	期 間
【地 学】		
イルカ下顎骨化石 1点	土山町教育委員会	1999. 8 .12～ 8 .31
【植 物】		
植物標本 3点 (ルリトラノオ、イブキタンポポ、コバノ ミミナグサ)	宮崎県総合博物館	1999. 7 .9～ 9 .10
植物レプリカ 1点 (ルリトラノオ)	同 上	同 上
【動 物】		
魚類液浸標本 39種60点	九州大学理学部	1999. 6 .21～2000. 6 .20
魚類咽頭歯 2点	上野 智 (大阪市)	1999. 7 .21～ 8 .31
魚類咽頭歯 2点	倉敷芸術科学大学	1999. 7 .27～ 7 .26
魚類液浸標本 8種12点 (コウライハス、オオタナゴなど)	九州大学理学部	1999. 8 .20～2001. 6 .20
トンボ標本 17点	荒井真紀 (鎌倉市)	1999. 7 .29～ 9 .27
トンボ標本 148点	北川一馬 (大阪市)	1999. 8 .28～12.24
トンボ幼虫模型 1点	能登川町立博物館	1999. 9 .10～10.31
トンボ成虫模型 1点	同 上	同 上
トンボ標本 13種26個体 (オジロサナエ、アオサナエ、エゾトンボなど)	能登川町立博物館	1999. 9 .12～11.20
ヤエヤマハナダカトンボ (乾燥標本) 雌雄各1点	北川一馬 (大阪市)	1999. 9 .7～11.23
イワトビケラ科成虫 (液浸標本) 1 (雄)	大阪府立大学	1999.10. 6～2000. 4 .5
【歴史・民俗】		
米俵 7俵	安土城考古博物館	1998. 9 .15～1999.12. 3
民具 19点	淡海エコライフフェア 実行委員会	1999. 7 .8～ 7 .11
唐橋遺跡出土無文銀錢 1点	N H K大阪放送局	1999.11.17～11.19
田舟模型 1点	能登川町立博物館	2000. 1 .26～ 3 .7
アカトリ 2個	同 上	同 上
【水族資料】		
淡水魚 (生魚) 12種類 (ニゴロブナ、ホンモロコ、ワタカなど)	近江八幡市	1999.10.13～10.15
スナヤツメ (生体) 2個体	神戸市立須磨海浜水族園	2000. 2 .14～ 3 .31

(5) 特別観覧許可

以下のとおり特別観覧の許可を行った。

【水族資料】

- ・ニゴロブナ、コアユ、ホンモロコ等 撮影 金尾功（東京都）
- ・青いアマガエル 撮影 森谷美紀（東京都）

(6) 資料評価委員

博物館として重要な資料の購入や受贈等にあたって、博物館資料としての学術的評価と価格評価を行うため、あらかじめ選定しておいた33名からなる資料評価者名簿をもとにしながら、資料評価委員を選任し、資料評価を依頼している。

5 展示活動

(1) 企画展示

1999年度には、下記の企画展示、ギャラリー展示を開催した。

・企画展示「湖の船～木造船にみる知恵と工夫」

会期：1999年7月20日（火）～11月23日（火）105日間、

料金：大人1000円、高校・大学生800円、小中学生500円（常設展観覧を含む）

総観覧者数 33,398人

本企画展の目的は、琵琶湖の伝統的な木造船を通じて、人々と湖とのかかわりを捉えることであった。目的によりまた地域の違いによって、いかなる木造船が存在してきたのか、そこに現われている人々の知恵と工夫は、いったいどのようなものであったのかを、さまざまな船道具をも通じて紹介した。また、世界の湖の昔から存在してきた船についてもいくつか展示した。



企画展示

「湖の船～木造船にみる知恵と工夫」

・関連行事

「琵琶湖の夏は船でいっぱい」（大津市歴史博物館との共催行事） 7月31日（土）

「記憶の継承」（環境ビジネスメッセ、長浜ドーム） 9月21日（火）～23日（木）

記念講演会「琵琶湖最後の船大工 松井三四郎大いに語る」 10月23日（土）

(2) 水族企画展示

「都会にくらす魚たち」

会期：1999年7月20日（火）～9月26日（日） 57日間

常設展示観覧券で入場

現在の都市空間は、人間が経済活動するために造りあげられた空間である。そこを流れる河川の多くは、切り立った矢板とコンクリートの護岸が直線的につづき、水生生物がすむ場所としては適当ではない。現在に比べ自然環境が比較的豊かだった頃の川にはどのような魚がすんでいたのだろうか。

本展では、都会の河川として大阪と東京の河川をとりあげ、時代の流れに伴う環境変化と、魚類相や風景の変化の様子を紹介した。

「ため池の生きものたち」

会期：1999年10月19日（火）～12月5日（日） 40日間

常設展示観覧券で入場

多くのため池は稲作を行うために造られた人工的な水域である。そこには長い歴史の中で、様々な動植物が移りすみ、ため池ごとにそれぞれ豊かな生態系が形成されてきた。しかし近年、河川

や湖沼からの水が利用されるようになり、必要のなくなったため池は埋め立てられたり、汚水が流入することによって水質が悪化するなど、ため池をとりまく環境が大きく変化している。

本展では、現在ため池で見られる水生生物を展示するとともに、人間とため池との関わり方の時代による変化について紹介した。

(3) ギャラリー展示

「赤野井湾遺跡発掘調査成果展～かつて、湖のほとりで～」

主催：財団法人滋賀県文化財保護協会、滋賀県立琵琶湖博物館

会期：1999年4月27日（火）～5月23日（日） 24日間

常設展示観覧券で入場

総観覧者数 21,888人

琵琶湖博物館に隣接する赤野井湾遺跡の発掘調査結果がまとまったのを機会に、財団法人滋賀県文化財保護協会と共同で、その成果展を開催した。琵琶湖畔で営まれた6千年以上にわたる生活の様子を考古資料をもとに紹介した。

「ワクワクたんぼ探検」(春編)

主催：滋賀県農政水産部、滋賀県立琵琶湖博物館

会期：1999年6月1日（火）～6月27日（日） 24日間

常設展示観覧券で入場

総観覧者数：16,958人

本展は昨年度開催した「秋編」に引き続く「春編」である。「春編」では「農村の暮らしと知恵」をテーマに、農業・農村の暮らしの中に息づく工夫と知恵から学び取れる、多面的な機能や環境との関わりについて考えてもらうとともに、食料とそれを支える農業・農村の価値を再認識してもらうことを目的に開催した。



ギャラリー展示
「ワクワクたんぼ探検」(春編)

・関連屋外行事

生活実験工房で実施

○「ボン菓子を作ろう」及び「昔のおやつを食べよう」：6月6、13、20日

○「ボン菓子を作ろう」及び「ブルーギルを食べよう」：6月27日

(4) 水族トピック展示

水族展示・ふれあい体験室前または水族企画展示室において、館内で繁殖した魚をはじめ話題性のある水生生物を展示した。内容と期間は以下のとおりであった。

展 示 期 間	テ ー マ (場 所)
1999年 3月17日～4月11日	少なくなった魚たち - 滋賀県でレッドリストに加わった魚11種約100点展示 (水族企画展示室)
6月1日～6月20日	ホンモロコの稚魚 (ふれあい体験室)
6月21日～7月11日	メダカの稚魚 (ふれあい体験室)
7月12日～8月1日	ヒナモロコの稚魚 (ふれあい体験室)
8月3日～8月22日	ニッポンバラタナゴの稚魚 (ふれあい体験室)
11月2日～11月28日	カネヒラの卵と親魚 (ふれあい体験室)
2000年 1月5日～1月30日	ムサシトミヨの未成魚 (ふれあい体験室)

(5) 展示関連事業

文部省親しむ博物館事業「漁師修行の旅」

文部省親しむ博物館事業の委嘱を受け、常設展示室を利用したプログラムの企画および実施を行った。この事業では、子ども達に常設展示室をより活用してもらい、展示室を横につなぐことによって、新しい展示の見方を提案するとともに琵琶湖の漁師について理解を深めるようことを目的とした。

実施は、1999年11月13日(土)～2000年2月13日(日)までの毎週日曜日、第2・第4土曜日、祝日などの計22日間おこなった。この期間に合計844人の参加者があった。



「漁師修行の旅」での投網の“修行”

貸し出しキット

子供たちはこのキットを持って
展示室をめぐった
(帽子、カバン、咽喉歯標本、
魚のミニ図鑑、双眼鏡、鉛筆、
擦り出し用クレヨン)



6. 印刷物

平成1999年度出版物一覧

出版物名称	サイズ	ページ数	発行部数
年報(第3号)	A 4	70	1,000
案内チラシ	A 4		20,000
研究発表会チラシ	A 4		3,000
研究発表会ポスター	A 2		1,000
研究発表会プログラム	A 4	20	150
研究調査報告書第12号 「琵琶湖東岸・烏丸地区深層ボーリング調査」	A 4	167	1,500
研究調査報告書第14号「ビワコダス・湖国の風を探る」	A 4	316	3,000
研究調査報告書第6号 「琵琶湖・淀川水系における水利用の歴史的変遷」(増刷)	A 4	67	1,000
業績目録3号	A 4	78	1,000
ミュージアムスクール活用集	A 4	83	500
子ども用展示てびき	A 4	46	10,000
うみんど 11号	A 4	8	50,000
うみんど 12号	A 4	8	50,000
うみんど 13号	A 4	8	50,000
うみんど 14号	A 4	8	50,000
うみっこ 6号	A 4	8	80,000
うみっこ 7号	A 4	8	80,000
もよおしもの案内(上半期)チラシ	A 4		60,000
もよおしもの案内(上半期)ポスター	A 2		1,000
もよおしもの案内(下半期)チラシ	A 4		60,000
もよおしもの案内(下半期)ポスター	A 2		1,000
資料目録3号「魚類標本3」	A 4	209	1,200
リーフレット(日本語)	特		450,000
リーフレット(英語)	特		3,000
リーフレット(中国語)	特		1,000
リーフレット(韓国語)	特		1,000
講演会チラシ	A 4		2,000
講演会ポスター	A 2		200
企画展「湖の船」展示解説書	A 4		2,000
企画展「湖の船」チラシ	A 4		40,000
企画展「湖の船」ポスター	B 2		1,500

ギャラリー展示「赤野井湾遺跡発掘調査成果展」ポスター	A 2		500
ギャラリー展示「赤野井湾遺跡発掘調査成果展」チラシ	A 4		3,000
水族企画展「都会にくらす魚たち」リーフレット	A 4	8	20,000
水族企画展「ため池の生きものたち」リーフレット	A 4	8	20,000
シンポ「21世紀の川と湖」記録集	A 4	37	200
博物館うらおもて「ほねほね化石発見ものがたり」	B 5	52	2,000
「総合案内」(増刷)	A 4	111	2,000

Ⅱ 利 用 状 況

1. 平成1999年度入館者数

期 間：1999（平成11）年4月1日～2000（平成12）年3月31日

合 計：517,810人 開館日数：297日

1日平均：1,743人

月平均：43,151人

入館者の区分別内訳

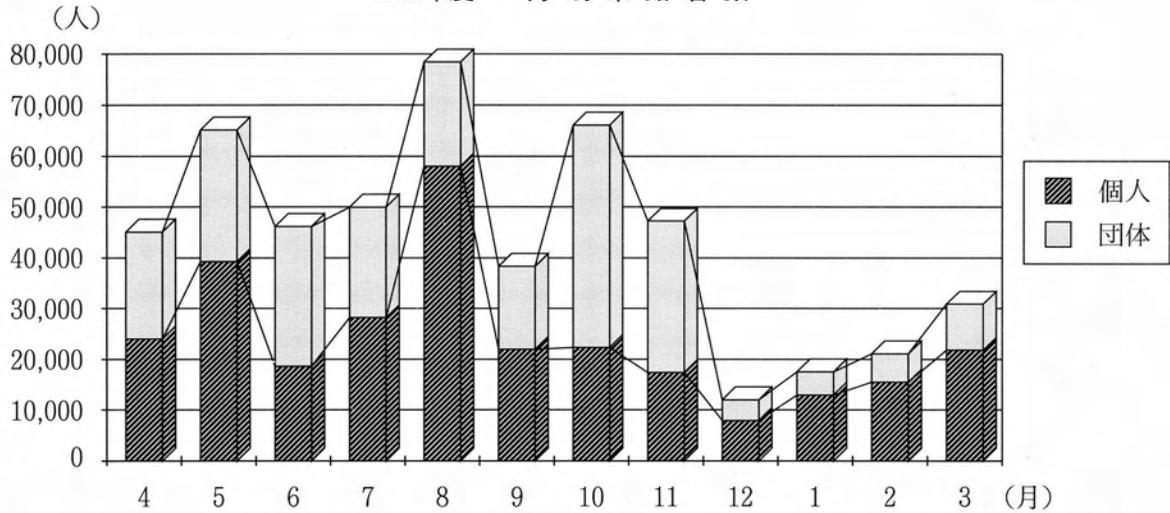
単位：人

区 分	個 人 (人)	団 体 (人)	合 計 (人)	構 成 比 (%)
小・中学生	46,234	76,605	122,839	23.7
高・大学生	9,645	17,495	27,140	5.3
一 般	231,824	136,007	367,831	71.0
合 計	287,703	230,107	517,810	100.0

(1) 総入館者数

年 月	開 館 日 数 (日)	有 料 入 館 (人)				無 料 入 館 (人)								総 計 (人)	1日当 り平均 (人)
		一 般	高大学生	小中学生	有料計	65歳以上	身障者	家庭の日	体験学習	こども の日	学校行事	その他	無料計		
11	4	27,469	6,068	7,767	41,304	425	294	351	41		2,476	199	3,786	45,090	1,734
	5	42,412	4,349	14,649	61,410	1,097	612	304	91	310	1,201	108	3,723	65,133	2,505
	6	31,334	883	8,600	40,817	994	564	292	33		3,289	154	5,326	46,143	1,775
	7	37,444	1,305	8,368	47,117	855	578	321	29		947	96	2,826	49,943	1,921
	8	54,357	2,628	18,616	75,601	747	813	240	39		792	182	2,813	78,414	3,016
	9	29,112	1,946	4,290	35,348	475	526	455	72		1,307	140	2,975	38,323	1,597
	10	35,360	2,233	18,669	56,262	658	592	243	47		8,011	311	9,862	66,124	2,449
	11	31,320	1,732	9,222	42,274	532	504	305	14		3,061	530	4,946	47,220	2,053
12	8,931	611	1,724	11,266	230	87	120	19		167	109	732	11,998	667	
12	1	12,352	398	2,768	15,518	201	159	290	21		1,212	83	1,966	17,484	760
	2	15,368	557	3,575	19,500	309	231	364	36		506	134	1,580	21,080	843
	3	22,174	1,309	5,119	28,602	365	499	323	39		980	50	2,256	30,858	1,143
計	297	347,633	24,019	103,367	475,019	6,888	5,459	3,608	481	310	23,949	2,096	42,791	517,810	1,743

1999年度 月別来館者数



(2) 学校等入館者数

上段(全体) 下段(県内)

年 月	小 学 校		中 学 校		高 校		その他学校		総 計	
	学校数	人 数	学校数	人 数	学校数	人 数	学校数	人 数	学校数	人 数
10. 4	16	1,774	5	431	21	4,013	1	35	43	6,253
	2	188	4	396	12	2,172	1	35	19	2,791
10. 5	74	5,480	25	3,554	35	6,724	7	136	141	15,894
	26	1,649	5	810	1	200	4	81	36	2,740
10. 6	45	3,564	28	4,527	10	1,439	1	10	84	9,540
	28	2,058	9	1,580	4	435	1	10	42	4,083
10. 7	6	427	15	1,285	7	182	0	0	28	1,894
	3	104	8	526	4	48	0	0	15	678
10. 8	5	287	7	141	3	119	0	0	15	547
	3	178	7	141	2	34	0	0	12	353
10. 9	28	1,829	3	168	6	596	2	45	39	2,638
	20	1,252	0	0	2	315	2	45	24	1,612
10. 10	248	20,786	30	5,497	14	825	4	125	296	27,233
	99	7,710	6	922	4	125	1	26	110	8,783
10. 11	46	3,595	20	3,105	11	899	3	103	80	7,702
	23	1,503	3	331	6	476	1	8	33	2,318
10. 12	10	970	1	6	3	112	0	0	14	1,088
	3	169	1	6	3	112	0	0	7	287
11. 1	12	957	0	0	1	310	1	21	14	1,288
	3	333	0	0	1	310	0	0	4	643
11. 2	19	1,637	0	0	3	98	0	0	22	1,735
	6	362	0	0	0	0	0	0	6	362
11. 3	20	1,087	2	241	8	555	2	14	32	1,897
	2	36	2	241	3	369	2	14	9	660
計	529	42,393	136	18,955	122	15,872	21	489	808	77,709
	218	15,542	45	4,953	42	4,596	12	219	317	25,310

(3) 曜日別入館者数

年	月	日曜・祝祭日	土曜日（祝日除く）	そ の 他	計
11	4	14,442	7,610	23,038	45,090
	5	34,506	9,421	21,206	65,133
	6	14,118	9,291	22,734	46,143
	7	18,546	10,014	21,383	49,943
	8	24,328	12,880	41,206	78,414
	9	18,090	7,022	13,211	38,323
	10	18,813	8,107	39,204	66,124
	11	16,236	7,688	23,296	47,220
	12	5,809	3,232	2,957	11,998
12	1	8,597	2,654	6,2331	7,484
	2	10,046	4,815	6,219	21,080
	3	14,149	4,575	12,134	30,858
計		197,680	87,309	232,821	517,810
構成割合%		38.2	16.8	45.0	100.0

2. 来館者アンケート調査結果報告

来館者動向を把握するために、a) 来館回数、b) 情報源、c) 年齢、d) 住まいの4点について平成10年度には以下のように3回のアンケート調査を実施した。結果は表に示したとおりであった。

回	調査期日	回答者数
1	1999年8月13・15日	745人
2	1999年11月2・7日	2,103人
3	2000年3月18・20日	527人

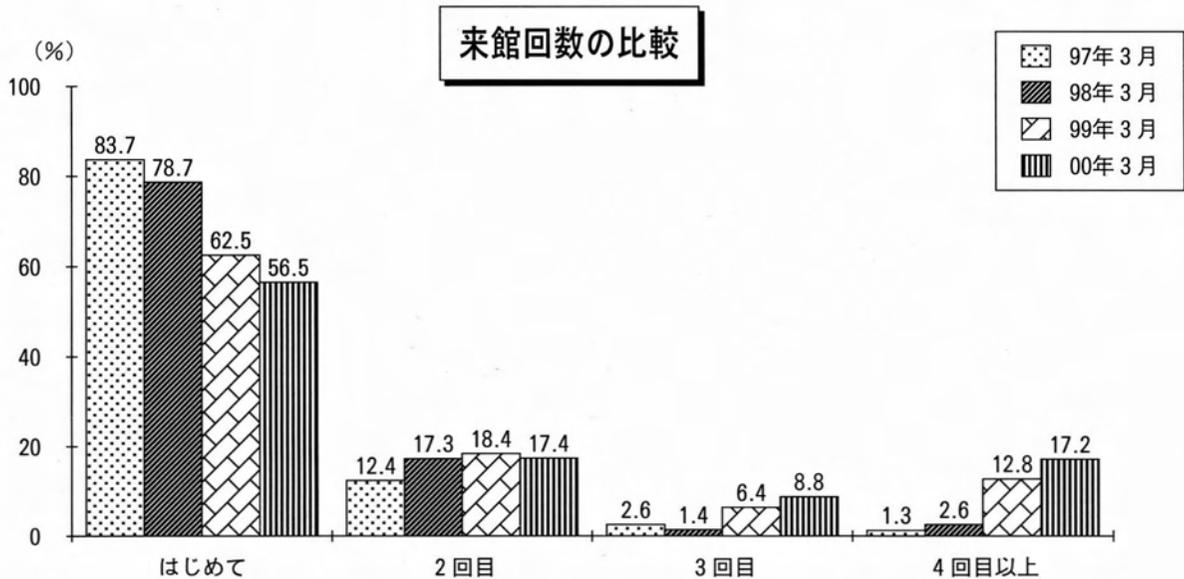
【来館者の動向】

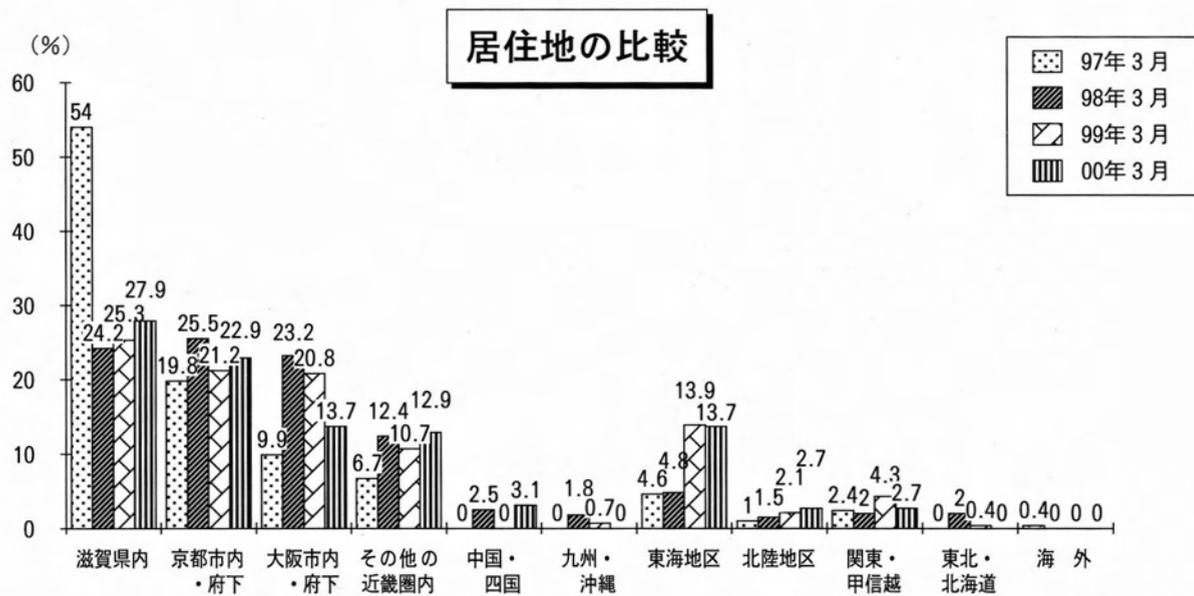
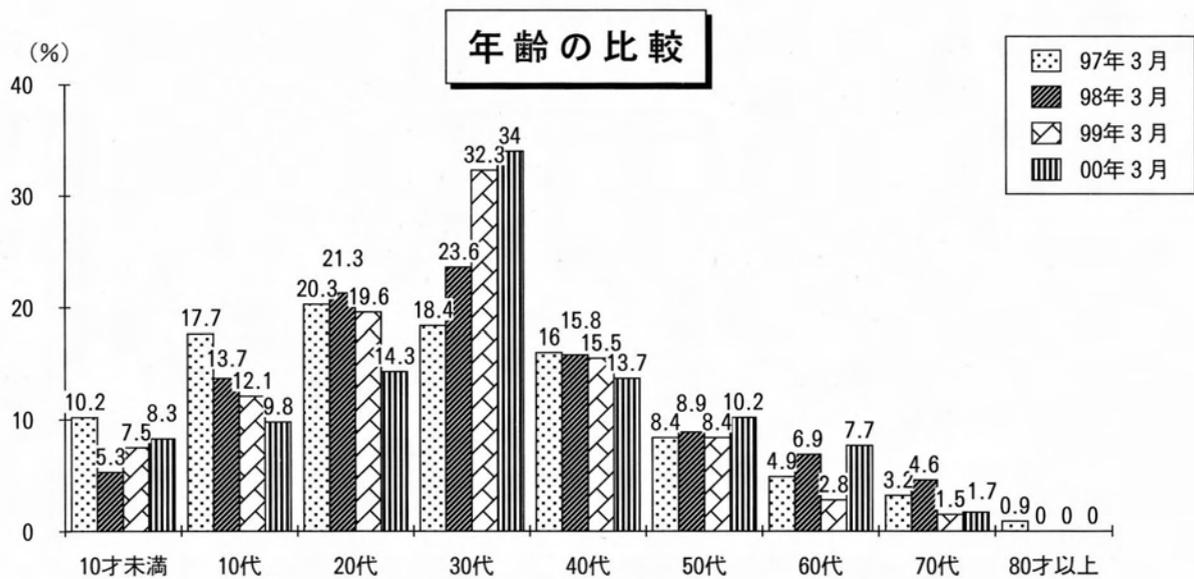
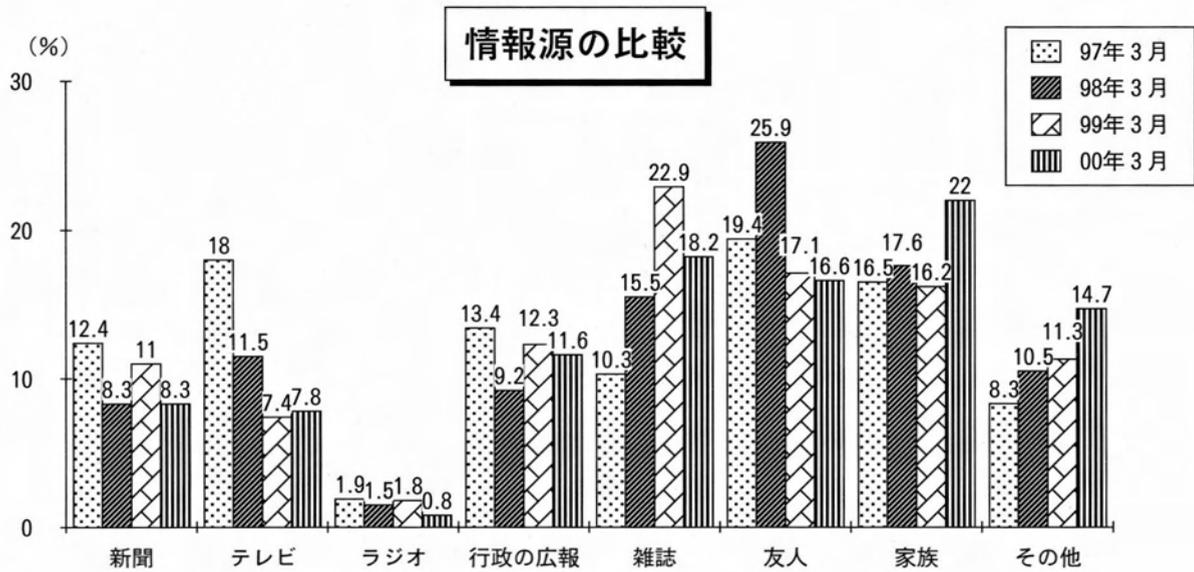
開館以来「はじめて」という人は減少し、その逆に「3回以上」「4回以上」というリピーターが増えている。リピーターの割合は、44.5%にもなっている。

「情報源」の比較では相変わらず友人や家族などの口コミや雑誌が多い。

年齢をみると、20代が減少し、30代、50代、60代で増加しており、高齢者の団体が増加していることが伺える。

また、「居住地」比較では、滋賀県内が2年目の落ち込みから徐々に回復してきている。京都に比較すると大阪の減少が目立つ。東海地区は新聞などで積極的に広報した昨年度から急激な増加をみせている。北陸地区はわずかではあるが増加を続けている。





3. 新聞掲載記録

月日	記事タイトル	新聞社名	月日	記事タイトル	新聞社名
4 6	京都国際セミナー10周年記念フォーラム 川那部館長、嘉田総括学芸員報告	京都新聞	5 22	ふえる体験型博物館 滋賀県立琵琶湖博物館の展示	朝日小学生新聞
7	さざなみ「ヤリタナゴ」が琵琶湖で激減 琵琶湖博物館の話	中日新聞	28	琵琶湖の生物たち「ギンブナ」(写真提供)	産経新聞
9	長針・短針 「女」性と環境 嘉田由紀子	朝日新聞	28	環境特集「水」 水と文化研究会の活動紹介	毎日新聞
11	Lake Biwa's largemouth bass reel in anglers	THE JAPAN TIMES	6 1	琵琶湖のアユに変化 琵琶湖博物館桑村主査	京都新聞
16	琵琶湖博物館 98年度の来館者33%減	日本経済新聞	4	長針・短針 ホタルの「自分化」 嘉田由紀子	朝日新聞
20	窓 読者の欄 琵琶湖博物館のボランティア解説員を体験して	京都新聞	4	琵琶湖の生物たち「ホトケドジョウ」(写真提供)	産経新聞
19	新生面 水俣病情報センター建設に嘉田総括学芸員が提言	熊本日日新聞	5	県立琵琶湖博物館 研究調査報告書「ビワコダス・湖国の風を探る」発行	京都新聞
22	ふる里名物館 琵琶湖博物館	朝日新聞名古屋版	6	県立琵琶湖博物館「ビワコダス」の研究調査報告書刊行	中日新聞
22	GWの行楽地の人出を県警予想	京都新聞	7	「琵琶湖の風」琵琶湖博物館まとめて本に	朝日新聞
24	ラムサール条約のことを知りたい時は琵琶湖博物館へ	朝日小学生新聞	7	琵琶湖総合保全計画スタート 川那部浩哉琵琶湖博物館館長の話	中日新聞
24	GWの県内行楽地の人出予想	朝日新聞	8	「ヨシ原保全の講演会」開催 主催関西自然保護機構	中日新聞
27	10年の集大成を冊子に 水と文化研究会	京都新聞	9	この人「水と文化研究会」小坂育子さん	毎日新聞
28	「赤野井湾遺跡発掘調査成果展ーかつて、湖のほとりて」琵琶湖博物館で開催	京都新聞	9	「みんなで話そう！美しい湖をめざして」開催 主催UNEP, ILEC	朝日新聞
5 1	琵琶湖博物館の入館者210万人を突破	読売新聞	9	「ヨシ原に関する国際ワークショップ・講演会」開催 主催関西自然保護機構	産経新聞
7	長針・短針 ナマズの信頼 嘉田由紀子	朝日新聞	9	「ヨシ原の現状と保全」巡って国際ワークショップ開催 主催関西自然保護機構	毎日新聞
7	滋賀県博物館協議会『淡海の博物館』出版	京都新聞	9	Intl reed bed meet set for Shiga Pref.	THE DAILY YOMIURI
8	県博物館協議会『淡海の博物館』81か所をガイド	読売新聞	9	「ヨシ原に関する国際ワークショップと講演会」開催 主催関西自然保護機構	京都新聞
8	琵琶湖博物館 ギャラリー展「赤野井湾遺跡発掘調査」開催	毎日新聞	10	「みんなで話そう！美しい湖をめざして」開催 主催UNEP, ILEC	読売新聞
9	GW人出 琵琶湖博物館は3万650人	読売新聞	10	絶滅の危機「タンカイザリガニ」(写真提供)	京都新聞
9	竹生島のカワウ被害について 琵琶湖博物館の亀田佳代子学芸員の話	中日新聞	10	Reed conservation	THE JAPAN TIMES
10	琵琶湖博物館 平成10年度の入館者64万3900人	中日新聞	11	琵琶湖の生物たち「メダカ」(写真提供)	産経新聞
12	「G8サミット」大津で開催決定 川那部浩哉館長の話	朝日新聞	11	「ヨシ原に関する国際ワークショップおよび講演会」開催 主催関西自然保護機構	読売新聞
13	「立命館びわこ講座」受講生募集 嘉田総括学芸員が講師	京都新聞	11	「21世紀の川と湖ードナウ川と琵琶湖・淀川」シンポで川那部浩哉館長が司会	毎日新聞
14	ガイドマップ『淡海の博物館』を出版 県博物館協議会	毎日新聞	13	シンポジウム「21世紀の川と海」で川那部浩哉館長コーディネーターに	読売新聞
14	琵琶湖の生物たち「イワトコナマズ」(写真提供)	産経新聞	13	滋賀県立琵琶湖博物館を訪ねて	熊本日日新聞
17	世界湖沼会議で意見発表「水と文化研究会」の代表	読売新聞			
21	第8回世界湖沼会議で各国NGOが交流「水と文化研究会」が発表	朝日新聞			
21	琵琶湖の生物たち「ハス」(写真提供)	産経新聞			
22	世界湖沼会議 湖沼の課題を研究報告	京都新聞			

月日	記事タイトル	新聞社名	月日	記事タイトル	新聞社名
6 13	琵琶湖の風、解明進む 琵琶湖地域環境教育委員会の研究成果発表	毎日新聞	7 20	中小企業庁長官賞受賞 県博物館協議会作成の『淡海の博物館』	中日新聞
15	湖の風 研究記録冊子が完成 琵琶湖地域環境教育研究会	読売新聞	22	琵琶湖博物館『学習プログラム集』作成・配布	産経新聞
16	現代のことば G8 環境大臣会議に寄せる 川那部浩哉	京都新聞	22	NHK「生きもの地球紀行」放送（取材協力）	産経新聞
16	「ヨシ原に関する国際ワークショップ」開催 主催関西自然保護機構	朝日新聞	23	県立琵琶湖博物館「びわ湖・ミュージアムスクールモデル事業」石部高校の授業始まる	京都新聞
18	琵琶湖の生物たち「ハクレン」（写真提供）	産経新聞	23	湖沼保全で国際交流 水と文化研究会と米国ウィスコンシン洲のNGO	京都新聞
25	「ヨシ原に関する国際ワークショップ」で「淡海焼」紹介	京都新聞	23	第2回日本水大賞募集 主催日本水大賞顕彰制度委員会	読売新聞
26	8月に子ども環境会議を開催 びわ湖フローティングスクール中心に	毎日新聞	25	水辺再生 「琵琶湖・淀川流域水環境交流会 '99」主催淀川愛好会事務局	毎日新聞
27	「ヨシ原に関する国際ワークショップ」始まる 主催関西自然保護機構	中日新聞	26	県立琵琶湖博物館水族企画展「都会に暮らす魚たち」開催	産経新聞
27	「ヨシ原に関する国際ワークショップ」始まる 主催関西自然保護機構	産経新聞	29	琵琶湖博物館で企画展「都会で暮らす魚たち」	滋賀報知新聞
27	「ヨシ原に関する国際ワークショップ」始まる 主催関西自然保護機構	京都新聞	30	「湖と人間」テーマに開館した県立琵琶湖博物館紹介	日本工業新聞
27	「ヨシ原に関する国際ワークショップ」始まる 主催関西自然保護機構	読売新聞	30	長針・短針 もしもあの時 嘉田由紀子	朝日新聞
29	8月に子ども環境会議を開催 コーディネーターは嘉田由紀子総括学芸員	京都新聞	8 1	滋賀プラス1 琵琶湖博物館のもよおし物	各紙折り込み
30	水口・柏木保育園でメダカの赤ちゃん誕生 琵琶湖博物館の話	京都新聞	1	「琵琶湖・淀川流域水環境交流会 '99」活かそう水辺、つなごう流れ」開催 前畑政善専門学芸員が基調講演	朝日新聞
7 1	滋賀プラス1 琵琶湖博物館のもよおし物	各紙折り込み	3	琵琶湖博物館水族企画展「都会に暮らす魚たち」親子連れでにぎわう	朝日新聞
2	長針・短針 「経験知」の現在 嘉田由紀子	朝日新聞	5	沖島の魅力に注目 調査を続ける八尋学芸員	朝日新聞
3	「子ども環境会議」嘉田由紀子総括学芸員がコーディネーター	読売新聞	8	「自然観察会」開催 Biyoセンターにて琵琶湖博物館の学芸員が講師役	京都新聞
4	「エコ草津探検隊」琵琶湖博物館で体験学習	中日新聞	10	琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センターで自然観察会開催 琵琶湖博物館学芸員が講師	中日新聞
5	博物館も変わらなきゃ！「琵琶湖で伝統漁法を体験する」琵琶湖博物館企画	asahi.comnews	11	8月18・19日に子ども環境会議 主催	朝日新聞
7	シグナル 「心斎橋・お米塾」で嘉田由紀子総括学芸員が講演	日本農業新聞	11	豪華客船で湖国再発見 主催朝日新聞社	朝日新聞
7	マラウイ共和国で水環境研究 琵琶湖博物館共同研究者の橋本さん	京都新聞	15	18日から「うみ守れ」初の子供会議 主催県環境政策課	読売新聞
11	琵琶湖博物館「水族展示の舞台裏」開催	中日新聞	16	現代のことば 五山送り火の日に 川那部浩哉	京都新聞
14	県内観光客過去最高 琵琶湖博物館は減少	朝日新聞	19	初の子ども会議 “うみ”の子湖上で環境学習 主催県環境政策課	中日新聞
14	JR草津駅に観光案内所開設 琵琶湖博物館など紹介	朝日新聞	19	琵琶湖を勉強 子ども環境会議 主催	朝日新聞
14	湖国への観光客過去最高を更新 琵琶湖博物館は大幅減少	京都新聞	20	県立琵琶湖博物館企画展「湖の船」開催	読売新聞
15	琵琶湖博物館で企画展「湖の船・木造船にみる智恵と工夫」を開催	毎日新聞	20	子ども環境会議で宣言を発表	読売新聞
16	県立琵琶湖博物館20日から企画展開催「湖の船-木造船にみる智恵と工夫」	京都新聞	20	子ども環境会議で環境保全へ一役	京都新聞
18	ハスの花、琵琶湖博物館の来館者らに人気集める	産経新聞	21	琵琶湖博物館 「都会にくらす魚たち」展開催	毎日新聞

月日	記事タイトル	新聞社名	月日	記事タイトル	新聞社名
8 22	高校訪問「県立石部高校」 県立琵琶湖博物館で集中講義	朝日中学生ウイークリー	10 1	滋賀プラス1 琵琶湖博物館のもよおし物	各紙折り込み
22	甲西町の「夏休み鑑定会」で山川千代美学芸員がアドバイス	朝日新聞	1	「外車船」滋賀大附属史料館の企画展で用田さん解説	中日新聞
25	県立琵琶湖博物館 28、29日に「夏休み相談室」を開催	読売新聞	2	滋賀大史料館の企画展で用田正晴さん講演	産経新聞
26	28日から「夏休み相談室」開催 琵琶湖博物館	朝日新聞	8	長針・短針 川へ洗濯に 嘉田由紀子	朝日新聞
28	「夏休み相談室」琵琶湖博物館学芸員や地元の専門家らに対応	読売新聞	13	琵琶湖博物館 18日に研究発表会「琵琶湖を考えよう」開催	朝日新聞
29	にぎわう「夏休み相談室」琵琶湖博物館	京都新聞	13	現代のことば 「車窓」・「環境メッセ」川那部浩哉	京都新聞
29	宿題の追い込み 県立琵琶湖博物館で「夏休み相談室」	毎日新聞	15	「全国水の郷サミット」で嘉田由紀子総括学芸員が司会	中日新聞
29	「宿題の仕上げ」相談室 県立琵琶湖博物館で	朝日新聞	15	全国水の郷サミット開幕 嘉田由紀子総括学芸員がコーディネーター	読売新聞
29	大にぎわいの相談室 県立琵琶湖博物館	中日新聞	15	近江八幡で「全国水の郷サミット」琵琶湖博物館嘉田由紀子学芸員がコーディネーター	産経新聞
29	窓 読者の投稿 「孫たちも夢中、素敵な博物館」	京都新聞	17	琵琶湖博物館で第2回研究発表会開催	読売新聞
29	琵琶湖地域環境教育研究会 ハン六文化振興財団地域振興賞受賞	毎日新聞	17	地域通信 自前の知識でNGO 嘉田由紀子	朝日新聞
29	琵琶湖地域環境教育研究会 ハン六文化振興財団地域振興賞受賞	京都新聞	20	琵琶湖博物館水族企画展示「ため池の生き物たち」始まる	京都新聞
30	琵琶湖博物館で「夏休み相談室」が開かれた	産経新聞	27	琵琶湖博物館開館三周年記念講演会で参加者を募集	京都新聞
9 1	滋賀プラス1 琵琶湖博物館のもよおし物	各紙折り込み	28	草津・琵琶湖博物館水族企画展「ため池の生き物たち」開催	産経新聞
1	ゆく夏しのび寄る秋色 県立琵琶湖博物館の入場者前年より減	朝日新聞	30	滋賀・守山下之郷遺跡からフナの骨大量出土 琵琶湖博物館中島経夫・総括学芸員の話	毎日新聞
3	琵琶湖の生物たち アユモドキ (写真提供)	産経新聞	30	滋賀・守山下之郷遺跡からフナの奥歯104個出土 琵琶湖博物館中島経夫・総括学芸員が調査分析	読売新聞
10	「集まれびわこ探検隊」開催 主催ロータリーアクトクラブ	京都新聞	30	滋賀・守山下之郷遺跡からフナの骨が大量出土 琵琶湖博物館中島経夫・総括学芸員が調査分析	朝日新聞
10	長針・短針 湖面を見る 嘉田由紀子	朝日新聞	30	守山・下之郷遺跡の環濠 ゲンゴロウフナの骨が大量出土 琵琶湖博物館中島経夫・総括学芸員が分析	京都新聞
11	「明日への環境賞」創設 加藤三郎さんと対談 琵琶湖博物館総括学芸員嘉田由紀子さん	朝日新聞	30	滋賀・守山下之郷遺跡 集落跡から魚の骨どっさり 琵琶湖博物館中島経夫・総括学芸員が分析	中日新聞
11	滋賀県立琵琶湖博物館の「かかし調査」紹介	朝日小学生新聞	31	第一回吉村賞を受賞 県立琵琶湖博物館学芸技師の芳賀裕樹さん	朝日新聞
12	出版情報「信長 船づくりの誤算ー湖上交通史の再検討ー」出版 専門学芸員用田正晴さん	朝日新聞	11 1	滋賀プラス1 琵琶湖博物館のもよおし物	各紙折り込み
14	緊急雇用対策 琵琶湖博物館の資料整備事業に数十人雇用	京都新聞	1	県の保全計画 ヨシの植栽難航 県立琵琶湖博物館布谷知夫総括学芸員の話	読売新聞
14	県、緊急雇用対策基金積立金を創設 琵琶湖博物館のデータベース化の促進	朝日新聞	3	川那部浩哉おすすめの本「動物系統分類学」	毎日新聞
16	日米の湖沼保全比較 市民団体「水と文化研」	読売新聞	5	長針・短針 生物多様性 嘉田由紀子	朝日新聞
17	琵琶湖の生物たち「ワタカ」(写真提供)	産経新聞	5	琵琶湖の生物たち「ゲンゴロウブナ」(写真提供)	産経新聞
24	琵琶湖の生物たち「ニッポンバラタナゴ」(写真提供)	産経新聞			
28	琵琶湖交通の研究本出版 県立琵琶湖博物館専門学芸員用田正晴さん	中日新聞			

月日	記事タイトル	新聞社名	月日	記事タイトル	新聞社名
11	7 世界湖沼会議 委員長に川那部琵琶湖博物館長	中日新聞	12	3 長針・短針「マラウィ湖畔で 生活実態に即した提言とは」 嘉田由紀子	朝日新聞
	7 "新生"世界湖沼会議に 川那部浩哉・県立琵琶湖博物館長を委員長に選出	産経新聞		3 琵琶湖の生物たち ウグイ (写真提供)	産経新聞
	7 2001年世界湖沼会議 企画推進委が初会合 委員長に川那部浩哉・琵琶湖博物館長	読売新聞		6 博物館がビジネス戦略 地域密着型の滋賀県立琵琶湖博物館善戦	読売新聞
	7 世界湖沼会議に向け初の企画推進委委員長に川那部氏	毎日新聞		6 現代のことば 気になる言葉 川那部浩哉	京都新聞
	7 世界湖沼会議へ準備 企画推進委員長 川那部氏決まる	朝日新聞		7 ゴールドマン教授が琵琶湖博物館で、「湖沼学の面白さと大切さ」題した講演	読売新聞
	7 世界湖沼会議 会長に川那部氏互選	京都新聞		10 琵琶湖の生物たち カワムツ (写真提供)	産経新聞
	9 掲示板 天皇在位10年記念で県立施設の無料公開	朝日新聞		11 県環境整備事業協同組合主催コンクールの表彰式琵琶湖博物館で開催	読売新聞
	11 高知・中村市で琵琶湖博物館の川那部浩哉館長が講演	京都新聞		14 湖沼学の権威 ゴールドマン教授 県立琵琶湖博物館で特別講演	朝日新聞
	11 高知・中村市でシンポ 川那部館長が基調講演	京都新聞		15 風の散歩道 「在来魚の激減」 琵琶湖博物館専門学芸員前畑政善	京都新聞
	11 琵琶湖博物館で館内めぐり "漁師修行" いかが?	京都新聞		17 灯 美のサポーター	京都新聞
	12 琵琶湖博物館が子供向け企画 漁師体験してみない?	中日新聞		19 湖沼学の世界的権威 ゴールドマン氏の講演「今こそ琵琶湖の保全に力を」	朝日新聞
	12 琵琶湖の生物たち ニゴイ (写真提供)	産経新聞		19 ゴールドマン教授が講演 「湖 次世紀も守ろう」	読売新聞
	12 県立琵琶湖博物館「生態系知ろう」と企画展開催	朝日新聞		19 ゴールドマン米大教授講演 「湖の環境、どう守る？」	京都新聞
	13 みんなのページリパティールランド「高等研(親子)サイエンス・スクール'99」	朝日新聞		25 琵琶湖博物館 世界古代湖会議の成果紹介「Ancient Lakes」出版	京都新聞
	17 「漁業」に親しもう 琵琶湖博物館が子ら対象に体験催し	朝日新聞		26 99湖国ビデオ10月 守山市下之郷遺跡からゲンゴロウブナの「咽頭歯」見つかる	京都新聞
	22 漁師気分で「湖」学習 琵琶湖博物館の「漁師修行の旅」	朝日新聞	1	1 元日特集 生命と暮らし「賑わい」次代に 川那部浩哉さん	京都新聞
	25 琵琶湖の漁学ぼう 琵琶湖博物館の「漁師修行の旅」	読売新聞		1 環境の世紀へー1ー 水生生物調べ10年 琵琶湖博物館学芸員秋山さん親子	朝日新聞
	24 京都新聞大賞 「湖と人間との共生的関係」の研究で川那部館長が受賞	京都新聞		1 湖国の魚は今 国内淡水魚の4分の1種生息 (写真提供)	朝日新聞
	24 道ひと筋 京都新聞大賞受賞の川那部浩哉さん	京都新聞		3 琵琶湖博物館 日本でトップクラスの参加型博物館	西日本新聞
	26 "湖沼学の権威" が琵琶湖博物館で講演	京都新聞		3 九州国博へのメッセージ 楠岡泰琵琶湖博物館交流センター科長	西日本新聞
	26 琵琶湖の生物たち オイカワ (写真提供)	産経新聞		6 湖国2000夢になう 父から受け継いだ研究にける情熱琵琶湖博物館主任学芸員松田征也さん	産経新聞
	26 「湖沼学」の世界的権威 ゴールドマン教授が琵琶湖博物館で特別講演	産経新聞		6 ヨシの保全へアイデア商品も ヨシ笛の作り方の紹介 県立琵琶湖博物館主任主事 中川修さん	朝日新聞
	27 湖沼学の第一人者招き琵琶湖博物館ホールで講演会	毎日新聞		7 環境の世紀へー4ー 自然に光あてたホテル 琵琶湖博物館ホテル調査の展示コーナー	朝日新聞
12	1 滋賀プラス1 琵琶湖博物館のもよおし物	各紙折り込み		9 琵琶湖博物館 古代湖会議発表論文を本に	読売新聞
	1 工業団地予定地にメダカやカワバタモロコ生息 (写真提供)	中日新聞		12 環境の世紀へー6ー 身近な自然のなぞ学習 琵琶湖博物館の学芸員と甲南中科学部員合同で	朝日新聞
	2 京都新聞大賞贈呈式で川那部館長が謝辞	京都新聞			
	2 湖沼の環境保全講演会へどうぞ 琵琶湖博物館で	中日新聞			

月日	記事タイトル	新聞社名	月日	記事タイトル	新聞社名
1 12	県立琵琶湖博物館 世界古代湖会議「琵琶湖論」発信	中日新聞	2 6	「湖国と文化」2000年冬号で琵琶湖博物館を特集	朝日新聞
14	長針・短針 20世紀の空白 琵琶湖博物館総括学芸員 嘉田由紀子	朝日新聞	9	琵琶湖博物館HP一新、県産魚類電子図鑑で公開	京都新聞
15	琵琶湖の生物たち モツゴ(写真提供)	産経新聞	9	現代のことば 「西暦2000年の旧暦元旦に」 川那部浩哉	京都新聞
19	English Book on Lakes	THE DAILY YOMIURI	9	琵琶湖博物館の用田さん「信長 船づくりの誤算」出版	毎日新聞
21	県立琵琶湖博物館 HPの情報量大幅増で便利に	中日新聞	16	写真家前野さんの遺作6400点琵琶湖がHPに	京都新聞
23	世界湖沼会議 大津で企画推進委員会	中日新聞	18	ヨシ群落戻れ湿地再生実験 琵琶湖岸の風景(琵琶湖博物館HPより)	読売新聞
23	世界湖沼会議 日程決まる	朝日新聞	24	琵琶湖・淀川水質保全機構主催シンポジウムに嘉田由紀子氏パネラーで参加	水道産業新聞
23	世界湖沼会議企画推進委員会 会議のスケジュールを決定	読売新聞	3 1	滋賀プラス1 琵琶湖博物館のもよおし物	各紙折り込み
23	きらめく湖に“環境21世紀”に向けて 学生版湖沼会議に夢をはせる	読売新聞	2	日帰りスポット 滋賀県立琵琶湖博物館	京都新聞
23	世界湖沼会議 推進委が原案	毎日新聞	2	県教育旅行促進協 モデルコースに琵琶湖博物館等を案内	中日新聞
23	世界湖沼会議 推進委が原案をまとめる	京都新聞	3	琵琶湖の生物たち ザリガニ(写真提供)	産経新聞
23	琵琶湖博物館で体験学習 化石の模型づくり	朝日新聞	5	世界湖沼会議推進委「5分科会タイトル決定」	読売新聞
24	「子どもエコクラブ」全国フェスティバルを開催 主催県琵琶湖環境部	中日新聞	5	世界湖沼会議企画推進委 5分科会の名称決定	朝日新聞
27	琵琶湖博物館 HPリニューアル	産経新聞	5	世界湖沼会議企画推進委 6分科会の名称決定	中日新聞
30	「琵琶湖ラムサール条約連絡協議会」設立へ琵琶湖博物館で開催	読売新聞	5	世界湖沼会議企画推進委 5分科会構成決まる	毎日新聞
31	「水を生かした文化」嘉田由紀子総括学芸員ら中心に事例集作成	日本経済新聞	10	長針・短針 キャリア 嘉田由紀子	朝日新聞
2 2	シンポジウム「琵琶湖・淀川の変化を診る」 嘉田由紀子総括学芸員らが環境回復に向けての提言を	京都新聞	11	琵琶湖博物館 来館者数が激減	中日新聞
3	琵琶湖ラムサール条約連絡協議会設立総会と記念シンポジウム 琵琶湖博物館で	毎日新聞	11	窓 オランダで「世界水フォーラム」開催 嘉田総括学芸員参加	朝日新聞
3	ラムサール条約 県市町が連絡協の設立記念シンポ琵琶湖博物館で	朝日新聞	12	きらめく湖に“環境21世紀”に向けて 子ども環境会議を終えて	読売新聞
3	住民活動通信紙「こもれび通信」に琵琶湖博物館を紹介	京都新聞	14	「里山保全活動シンポジウム@びわこ」 布谷知夫総括学芸員がパネリスト	京都新聞
3	教育 メモ 森林伐採が環境に及ぼす影響 草加伸吾学芸員らが発表	朝日新聞	15	湖国ひと模様 「水と文化研究会」小坂育子さん	毎日新聞
4	ひと 立ちばなし 嘉田由紀子さん京都精華大の教授に	京都新聞	16	琵琶湖博物館の観察会 4月2日に現地学ぼうグイ漁と料理	朝日新聞
4	ラムサール連絡協 琵琶湖博物館で設立総会	中日新聞	18	世界水フォーラム オランダで開幕 嘉田総括学芸員参加	京都新聞
4	琵琶湖の生物たち アユ(写真提供)	産経新聞	19	里山保全活動シンポジウム@びわこ開催 布谷知夫総括学芸員がパネリスト	中日新聞
5	大津の写真家・前野隆資さんの遺作を琵琶湖博物館HPで公開	読売新聞	22	琵琶湖博物館「里山体験教室」年4回開催の参加者募集	朝日新聞
6	「琵琶湖ラムサール条約連絡協議会」設立 琵琶湖博物館で	朝日新聞	22	温暖化防止へG8環境相会合に川那部浩哉琵琶湖博物館館長の提言	朝日新聞
6	「琵琶湖ラムサール条約連絡協議会」設立 琵琶湖博物館で	毎日新聞	23	県立琵琶湖博物館 写真家・前野さんの作品をホームページで公開	朝日新聞
6	「琵琶湖ラムサール条約連絡協議会」設立 琵琶湖博物館で	読売新聞	24	草津市教委がビデオレター作成 琵琶湖博物館等紹介	京都新聞
6	「琵琶湖ラムサール条約連絡協議会」設立 琵琶湖博物館で	産経新聞	26	「みんなで滋賀の風景を考えるつどい」開催 滋賀県主催	京都新聞

4. 雑誌等掲載記録

月	記事テーマ	掲載雑誌名等	月	記事テーマ	掲載雑誌名等
4	湖国文化情報 琵琶湖博物館の催し物紹介 琵琶湖博物館の観覧会紹介 滋賀の町散策 滋賀県立琵琶湖博物館 行ってきました 滋賀県立琵琶湖博物館 関西情報ノート 滋賀県立琵琶湖博物館 水俣フィールドミュージアム構想 琵琶湖博物館の経験から 嘉田由紀子 湖上交通のいま昔 琵琶湖博物館の企画展紹介 施設化計画と事業運営資料集 ケーススタディ 琵琶湖博物館 琵琶湖博物館の写真陶板を紹介 琵琶湖博物館前で撮影会 雑魚遊び、ふたたび 琵琶湖博物館 琵琶湖博物館のびわ湖・ミュージアムスクールモデル事業について 琵琶湖博物館のミュージアム・ショップを訪ねる 琵琶湖博物館の市民による地域フィールドワークについて 小林達雄対談集 琵琶湖博物館 嘉田由紀子学芸員と きょういく時報 琵琶湖博物館の講座紹介	れいかる〈春〉	6	自然を学ぶ自然に学ぶ 滋賀県立琵琶湖博物館の場合	社会教育6月号
		びいめ・る VOL.7 国立療養所比良病院院内報 とうらん(TCM社報)			れいかる〈夏〉
		関西便利帳			Forbesフォープス日本版
		ごんずい			全国版 宿泊表7月号
		関西小さな旅NO.7			化学vol.54
		新版 ミュージアム			地方共済
		楽苑(神慈秀明会会報)			シネマハウス サリュ
		STYLE WAGON vol.40 BE-PAL 4月号			PiPi Mix VOL.8
		月刊ミュゼ4月			Do遊マップ
		月刊ミュゼ4月			茶の間 7月号
		月刊ミュゼ4月			りっふる淡海vol.9
		ミュージアムの思想			りっふる淡海vol.9
教育時報社	週間宝石				
5	春のおでかけspecial 滋賀県立琵琶湖博物館へ 「おでかけだいすき!」口コミスポット決定版 「ブラックバスに喰われた国」中井克樹学芸員が意見を述べる バスツアー 初夏の琵琶湖と源氏物語の世界へ	LマガジンNo.265	7	湖国文化情報 琵琶湖博物館の催し物紹介 特別企画特集シリーズ「自治体新時代」滋賀県立琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖再発見 県立琵琶湖博物館を見よう 博物館へ行こう! 滋賀県立琵琶湖博物館 滋賀の見どころガイド 滋賀県立琵琶湖博物館 近郊スポットで夏のホリデー 滋賀県立琵琶湖博物館 夏まるかじり100% 滋賀県立琵琶湖博物館 琵琶湖博物館水族企画展示紹介 涼を求めて・水辺に遊ぶ 滋賀県立琵琶湖博物館 湖国に魅せられた外国人たち 琵琶湖博物館主任学芸員のロシタ劫さん 近江路紀行 滋賀県立琵琶湖博物館 琵琶湖試食ルポ 全国のバス釣り愛好家に提言 琵琶湖博物館主任学芸員の中井克樹氏 夏のアミューズメント 滋賀県立琵琶湖博物館 第56回びわ湖まつり 琵琶湖を学べる施設「滋賀県立琵琶湖博物館」 遠くへ行こう 滋賀県立琵琶湖博物館 インタビュー 琵琶湖博物館主任学芸員アンドリュウ劫・ロシタ劫氏 イベント情報 琵琶湖博物館の情報紹介 滋賀県立琵琶湖博物館全景写真(写真提供)	京都のあるきかた
		私の赤ちゃん BE-PAL 5月号 あさひゆめほっと			夢けんせつ 夏号 滋賀リビング 時報 市町村教委
6	琵琶湖博物館の観覧会紹介 '99JR 近くて、いい旅 電車&ウォーク「博物館・美術館」 '99JR 近くて、いい旅 電車&ウォーク「水族館」 宝湖をまるごと学べる旅へ 滋賀県立琵琶湖博物館 烏丸半島と大津港周辺で琵琶湖の魅力を満喫	びいめ・る VOL.8 JR西日本パンフレット(夏) JR西日本パンフレット(夏) 宝湖フリープラン'99夏 うつろひVol.5(佐川美術館情報誌)	8	琵琶湖博物館の観覧会紹介 近くて、いい旅 電車&ウォーク 8月号 JR日帰り情報街はぐるりと美術館・博物館 KANNSAI こだわり「烏丸半島」滋賀県立琵琶湖博物館 お出かけ情報 琵琶湖博物館企画展紹介	びいめ・る VOL.9 JR西日本パンフレット ソワサント8月号 わっと(関西電力機関誌) mapple net

月	記事テーマ	掲載雑誌名等	月	記事テーマ	掲載雑誌名等
8	びわこ周辺観光案内図 滋賀県立琵琶湖博物館紹介 〈文化・観光〉最新情報 滋賀県立琵琶湖博物館の企画展紹介 淡水プランクトンの世界（写真提供） デート&お出かけ情報 琵琶湖博物館トンネル水槽（写真提供）	佐川急便パンフレット マンスリーガイド京都 8月 世界通信教材科学ニュース アステルMOZiOサービス 私たちの県税	10	修学旅行用環境プログラム集 滋賀県立琵琶湖博物館 博物館この逸品 滋賀県立琵琶湖博物館 丸子船 秋・冬のレジャースポット いとをかし京都・奈良・滋賀 単車でGO! 2 今月の収穫物件 琵琶湖博物館	環境プログラム集 週刊 エコノミスト レジャーMAP 日本交通公社パンフレット Champu U
9	今月の見たい! 「湖」ナビゲーターは滋賀県立琵琶湖博物館学芸員里口保文さん 〈文化・観光〉最新情報 滋賀県立琵琶湖博物館の9月の催し物紹介 ここにこんなものが! ユニークな博物館情報 滋賀県立琵琶湖博物館 '99JR近くて、いい旅 電車&ウォーク「歴史や自然が学べる博物館」 '99JR近くて、いい旅 電車&ウォーク「わくわく楽しい動物園・水族館」 AMUSEMENT DATE 滋賀県立琵琶湖博物館 掲示板 観察会紹介 観光ガイドマップに紹介 滋賀県立琵琶湖博物館 宝湖をまるごと学べる旅へ 滋賀県立琵琶湖博物館 滋賀県内納入先紹介 琵琶湖博物館紹介	関西じゃらん マンスリーガイド京都 9月 楽しい理科授業9月号 JR西日本パンフレット(秋) JR西日本パンフレット(秋) デートぴあ 日経サイエンス ウェルカム関西観光ガイドマップ 宝湖フリープラン'99秋 川重冷熱工業株式会社パンフレット Do遊マップ秋冬	11	博物館へ行こう! 滋賀県立琵琶湖博物館 京都・琵琶湖 浪漫の旅 琵琶湖博物館紹介 '99 JR近くて、いい旅 電車&ウォーク「歴史や自然が学べる博物館」 '99 JR近くて、いい旅 電車&ウォーク「わくわく楽しい動物園・水族館」 Aquaria (世界の水族館紹介、滋賀県立琵琶湖博物館) 滋賀で暮らす、滋賀を愛する、素敵な人たち 松井三四郎さんを紹介 水辺のさんぽ 生き物ウォッチング (写真提供)	Nikon by Nikon びわこの千松 チラシパンフレット JR西日本パンフレット(冬) JR西日本パンフレット(冬) Aquaria りっぶる淡海vol.10 (株) 新学社
10	日本ぶらり旅(滋賀) 琵琶湖博物館紹介 何でも体験!! 遊んで学べる体験学習施設ガイド 琵琶湖博物館の観察会紹介 関西レジャーマップ 掲示板 企画展示紹介 楽しく学ぶ 滋賀県立琵琶湖博物館 学ぶ秋 滋賀県立琵琶湖博物館 日本の秋を満喫する旅「琵琶湖南部へ」 滋賀県立琵琶湖博物館 お国自慢 滋賀県編 県立琵琶湖博物館 博物館へ行こう! 滋賀県立琵琶湖博物館	清流 PLAZUMA びいめ・る VOL.10 NTTDoCoMo 日経サイエンス 行楽BOOK CALACO mama ミセス るるぶじゃぱん Nikon Today	12	琵琶湖博物館の観察会紹介 私のミュージアム 滋賀県立琵琶湖博物館 博物館、マリーナから海釣り公園まで 2000データブック レジャーランド&レクパーク総覧 AMUSEMENT SPOT LIST 滋賀県立琵琶湖博物館 今月の体験 湖とふれあおう 滋賀県立琵琶湖博物館 ミュージアムグッズ 買って贈って楽しめる徹底ガイド 600点	びいめ・る VOL.10 龍谷 海の施設総ガイド レジャーランド&レクパーク総覧 冬ぴあ(関西版) ウーマンライフ(神戸版) The Museum goods
			1	もっと知りたい琵琶湖博物館 滋賀県の美術館・博物館・文芸会館一覧紹介 びわこ湖南ええもんバスめぐり〈冬限定〉 TOWN GUIDE 湖南ガイド びわ湖 DATABOX 草津観光ガイド 中学理科資料集(写真提供) 近江の文学風景	湖国と文化 れいかる〈冬〉 ループバス周遊マップ 滋賀イベントガイド 別冊 旅の手帳 KUSATSU KANKO GUIDE (株) 新学社 湖
			2	琵琶湖博物館の観察会紹介 ぐるっと一周びわこ湖南 ええもんバスめぐり	びいめ・る VOL.12 リビング

月	記事テーマ	掲載雑誌名等	月	記事テーマ	掲載雑誌名等
2	鳥丸半島見所ピックアップ 琵琶湖博物館 琵琶湖博物館を見学して 「関廼井」と「守山」 琵琶湖博物館総括学芸員 嘉田由紀子 歴史と文化の琵琶湖へ 滋賀県立琵琶湖博物館 ミュージアム レストラン 滋賀県立琵琶湖博物館の「湖の幸天ぷらうどん」紹介 自然と人間のつき合い方はテクノロジーの進歩で決まる 滋賀県立琵琶湖博物館紹介 エリアマップ 滋賀県立琵琶湖博物館紹介	K PRESS (京阪ニュース) 茅ヶ崎自然の新聞 豊穡の郷だより ポポ 全科協ニュース アドバタイジング J-フォンもって出かけよう	3	'99JR 近くて、いい旅 電車&ウォーク「歴史や自然が学べる博物館」 '99JR 近くて、いい旅 電車&ウォーク「わくわく楽しい動物園・水族館」 ユ- & ミ-。近江 ドジョウ・ナマズのなかま (写真提供) 水族館に出かけてみよう 滋賀県立琵琶湖博物館 Voice BOX 琵琶湖が近くなった	JR西日本パンフレット (春) JR西日本パンフレット (春) JR車内ポスター 学研の図鑑「魚」 学研の図鑑「魚」 りっふる淡海

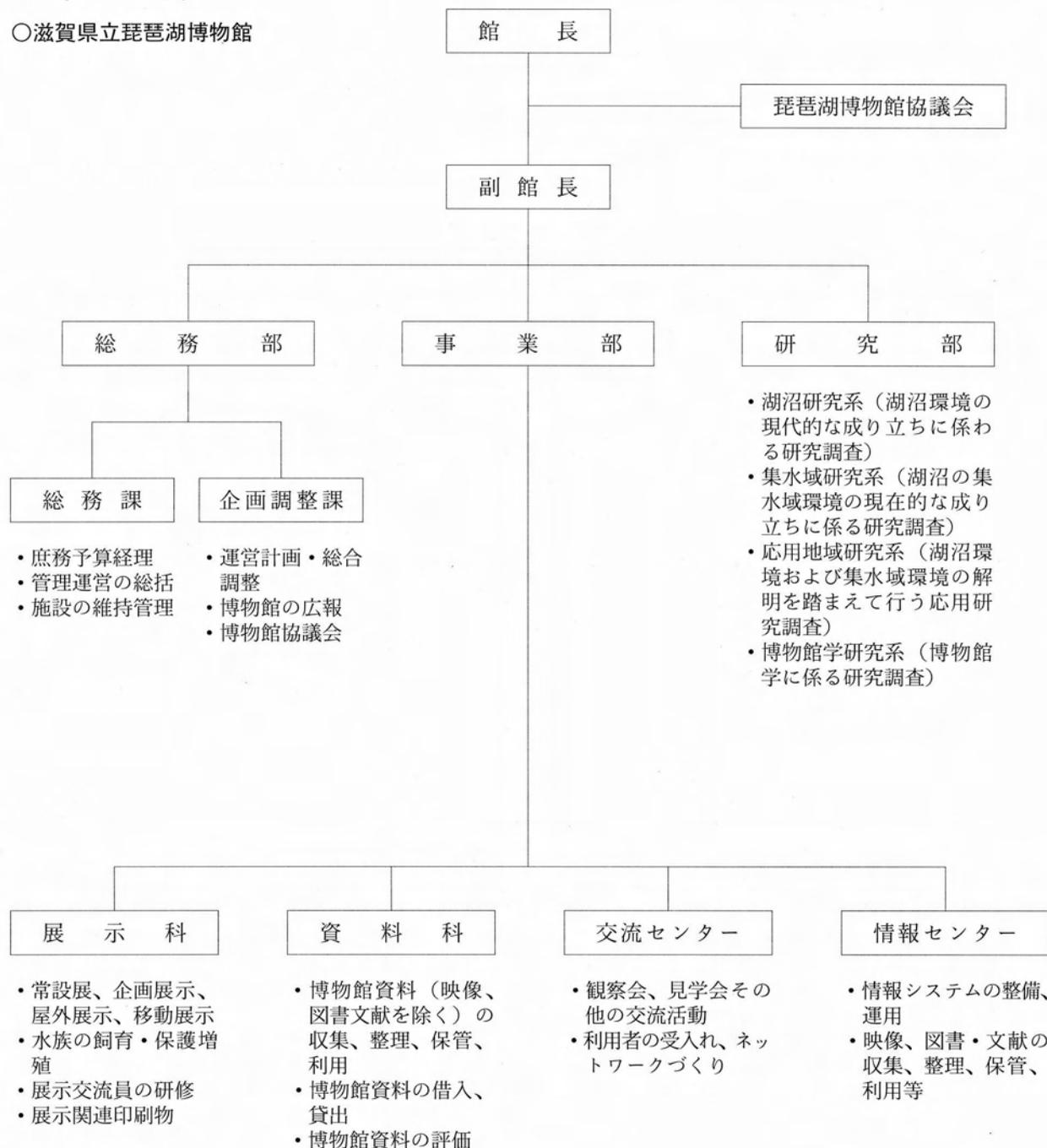
5. テレビ放映・ラジオ放送記録

月 日	タイトル	テレビ会社名等	月 日	タイトル	テレビ会社名等		
4	9	ニュースパーク関西 ゲスト コメンタリー「琵琶湖総合保 全」について	NHKテレビ	8 18	夏季特別編成・琵琶湖博物館 のこころみ・	NHKワールド音声 放送	
				27	日本列島ほっと通信 特集 「小さい秋みつけた」	ABCラジオ	
5	7	ニュースパーク関西 ゲスト コメンタリー「ホテル」につ いて YOU郵マイタウン	NHKテレビ	9 4	深夜放送「ナマズを10年研究 して」	NHKラジオ	
				5	所さんの目がテン！	日本テレビ	
				10	We Love びわ湖・すべて見 せます！母なるびわ湖・	びわ湖放送	
				14	ワイドABCDE・す 博物館 の紹介	朝日放送	
				14	たけしの万物創世紀 「湖」	テレビ朝日	
5・7	14	痛快！裏ネタうむ	びわ湖放送	10	We Love びわ湖・すべて見 せます！母なるびわ湖・	日本テレビ	
				17	遥かなる大湖に生きる！琵琶 湖沖島紀行！！	BS 9ch	
5・7	23	所さんの目がテン！「ブラッ クバス」 ニッポンこだわり漁「琵琶湖 の漁業」	日本テレビ	10	Shiga Pubulic Wave イベント 紹介	FM滋賀ラジオ	
				9	ラジオ夕刊「編集長の環境ファ イル」のコーナー	NHKラジオ	
6	1	ニュース「ワクワク田んぼ探 検 春編」	びわ湖放送	10	噂の！東京マガジン 「週刊 誌・特ダネの真相」のコーナー	TBS	
				2	ニュースパーク関西 「フィー ルドレポーター制度」	NHKテレビ	
	2	ニュースパーク関西 「ワク ワク田んぼ探検 春編」	NHKテレビ	14	TXNニュースワイド ニュー スアイ「琵琶湖のギャング 大繁殖」	テレビ東京	
				6	サンデー11しが「ワクワク田 んぼ探検 春編」	びわ湖放送	
	25	ニュースパーク関西 「滋賀 県外来魚対策特集」	NHKテレビ	11	24 満点！しあわせテレビ「どう なっとんねん！」コーナー	テレビ大阪	
				27	発掘！あるある大事典「うな ぎ」	関西てれび	
	7	2	ニュースパーク関西 ゲスト コメンタリー「琵琶湖の風」 について	NHKテレビ	12	5 遠くへ行きたい	よみうりテレビ
					16	ケーブルニュース「漁師修行 の旅」の紹介	大阪セントラル・ケー ブル・ネットワーク
2		痛快！裏ネタうむ「カメ」	びわ湖放送	22	滋賀県だより「琵琶湖博物館 12・1月のイベント」	KBS滋賀ラジオ	
				2	24 千客万来	NHKテレビ	
2		午後は〇〇おもいきりテレ ビ「今日は何の日」のコーナー	日本テレビ	1	1 おめでとう近畿の元旦2000 「お国自慢グランプリ」	びわ湖放送	
				2	3 「みんなのメッセージ」	NHKテレビ	
18		鉄道唱歌の旅	ハイビジョンテレビ	2	7 びわ湖の魚ものがたり「ニゴ ロブナ」	NHKテレビ	
				21	22 「ふれあい見つけ旅」滋賀 ・ 22 冬の琵琶湖 近江八景めぐり と大人気！城下町体験ツアー・	KBS京都	
21		KEN（滋賀県広報番組） 「ブルーギルを考える」	びわ湖放送	3	5 びわ湖の魚ものがたり「アユ」	NHKテレビ	
				22	2 素敵な宇宙船地球号「よみが えれ！ヨシ原」	テレビ朝日	
	22			8 スーパーニュース	フジテレビ		
22	生きもの地球紀行（取材協力）	NHKテレビ	30	MBSナウ	毎日放送		
						25	こちら海です
8	9	サニーサイドバルコニー 「企画展紹介」	FM滋賀ラジオ	2	2	2	
		15	新・サンデー11しが 「みず すまし事業」	びわ湖放送	8	30	8

Ⅲ 組織および運営

1 組織

○滋賀県立琵琶湖博物館



職員構成（平成11年3月31日現在）

区分	館長(非常勤)	行政職	研究職	教育職	小計	嘱託等	合計
人数(名)	1	13	27	3	44	15	59

2 職 員

1999年4月1日現在

- 館 長 川那部 浩 哉
- 副 館 長 西 岡 信 夫

総 務 部

- 部 長 的 場 功 巳
- 研究交流総括 嘉 田 由 紀 子

◇ 総務課

- 課長(兼) 的 場 功 巳
- 課長補佐 千 代 文 一
- 専 門 員 小 森 啓 二
- 調 査 員 西 澤 崇
- 主任主事 馬 場 聡 史
- 同 安 井 和 治
- 同 西 村 佳 子

◇ 企画調整課

- 課長(兼) 前 畑 政 善
- 専 門 員 森 野 泰 起
- (兼) アンドリュウ ロンター
- (兼) 里 口 保 文
- (兼) 橋 本 道 範
- (兼) 亀 田 佳 代 子

事 業 部

- 部長(兼) 布 谷 知 夫

◇ 展示科

- 科長(兼) 高 橋 啓 一
- (兼) 美濃部 博
- (兼) 松 田 征 也
- (兼) 芦 谷 美 奈 子
- (兼) 宮 本 真 二
- (兼) 牧 野 久 実
- (兼) 八 尋 克 郎

◇ 交流センター

- 科長心得(兼) 楠 岡 泰
- 主査(併任) 江 島 穰
- 主査(併任) 横 山 泰 史
- 主任主事(併任) 中 川 修
- (兼) 内 藤 又 一 郎
- (兼) 桑 村 邦 彦
- (兼) 長 崎 泰 則
- (兼) 牧 野 厚 史
- (兼) 芳 賀 裕 樹

◇ 資料科

- 科長(兼) 用 田 政 晴
- (兼) 草 加 伸 吾
- (兼) マーク ジョセフ グライガー
- (兼) 桑 原 雅 之
- (兼) 中 藤 容 子

◇ 情報センター

- 科長心得(兼) 秋 山 廣 光
- (兼) 内 田 臣 一
- (兼) 中 井 克 樹
- (兼) 戸 田 孝
- (兼) 山 川 千 代 美

研究部

○部長(兼) 中島 経夫

◇ 湖沼研究系

総括学芸員 中島 経夫

◎主任学芸員 楠岡 泰

同 アンドリュー ロンター

同 中井 克樹

同 戸田 孝

同 松田 征也

学芸員 芦谷 美奈子

同 里口 保文

同 中藤 容子

学芸技師 牧野 久実

同 芳賀 裕樹

同 亀田 佳代子

◇ 博物館学研究系

◎総括学芸員 布谷 知夫

主任学芸員 秋山 廣光

同 マーク ヨセフ グライガー

学芸技師 橋本 道範

(兼) 江島 穰

(兼) 横山 泰史

(兼) 中川 修

◇ 集水域研究系

総括学芸員 嘉田 由紀子

◎専門学芸員 高橋 啓一

主任学芸員 草加 伸吾

同 内田 臣一

学芸員 山川 千代美

学芸技師 牧野 厚史

同 八尋 克郎

◇ 応用地域研究系

◎専門学芸員 前畑 政善

同 用田 政晴

専門員(兼) 内藤 又一郎

調査員(兼) 美濃部 博

主査 桑村 邦彦

同(兼) 長崎 泰則

学芸員 桑原 雅之

同 宮本 真二

注) ◎は各研究系代表

臨時的任用職員・嘱託員

新井 ゆかり 総務事務

北中 美紀子 同

堀出 佳代子 同

小菅 由有子 館長秘書

宮田 輝美 同

山中 裕子 ディスカバリールーム運営

瀬川 也寸子 同

谷崎 誠三 展示物の製作・維持補修

馬場 加依子 地学標本整理

矢野 健 昆虫標本整理

細川 真理子 歴史民俗資料整理

小関 義正 実習補助・団体利用受付

勝島 治美 生活実験工房運営

吉村 仙二郎 同

濱尾 研児 メディアラボ印刷・業務機器保守管理

生津 恵子 図書情報利用室運営・図書資料整理

村瀬 忠義 植物標本整理

3 予 算

平成11年度歳入状況

(円)

科 目	決 算 額
使用料及び手数料	220,092,565
財 産 収 入	2,987,700
雑 入	154,482
合 計	223,234,747

平成11年度歳出状況

(円)

事 業 名	事 業 内 容	決 算 額
管 理 運 営 費	施設維持費、烏丸半島整備、事務費	338,449,377
調査資料収集事業費	研究費、研究備品、資料収集製作、資料整理保管、水族飼育	275,957,910
展 示 事 業 費	企画展示、常設展示、展示維持管理、展示用印刷物	228,924,816
情報交流事業費	情報システム管理、データ入力、図書整備、交流事業開催、フィールドレポーター	106,817,387
	合 計	950,149,490

4 滋賀県立琵琶湖博物館協議会

開催日時 1999年10月13日(水) 13:30~16:30

場 所 琵琶湖博物館セミナー室

出席者 委員10名、事務局

第2期委員

(任期：1998年9月1日~2000年8月31日)

氏 名	区 分	現 職
浦 谷 清 子	学校教育	滋賀県小学校長会 会計監事
南 出 義一郎	学校教育	野洲町立野洲北中学校 校長
井 上 静 代	社会教育	滋賀県青年団体連合会 理事
徳 島 りつ子	社会教育	日本青年会議所 業種別運営会議飼料畜産部会長
原 田 英 司	学識者	京都大学 名誉教授
西 野 嘉 章	学識者	東京大学総合研究博物館 教授
柄 本 武 良	学識者	姫路市立水族館 館長
鄭 大 聲	学識者	滋賀県立大学人間文化学部 教授
齋 藤 一 美	学識者	NHK大阪放送局 専門委員
上 野 勝 代	学識者	京都府立大学人間環境学部 教授
岡 本 幸 助	学識者	滋賀県脊髄損傷者協会 会長
日 高 敏 隆	学識者	滋賀県立大学 学長
中 村 正 久	学識者	滋賀県琵琶湖研究所 所長
小 川 暢 保	学識者	滋賀県議会 琵琶湖環境農政水産常任委員長
古 川 研 二	学識者	草津市長

IV 博物館利用のご案内

- 開館時間 AM 9 : 30～PM 5 : 00 (入館はPM 4 : 30まで)
- 休館日 毎週月曜日(休日である場合を除く)・休日の翌日(土・日曜となる場合を除く)
・年末年始(12月28日～1月4日)
- 観覧料金(常設展)

	個人	団体(20人以上)	共通券(*)
小学生・中学生	250円	200円	320円
高校生・大学生	400円	320円	520円
大人	500円	400円	650円

※未就学児、県内居住の65歳以上の方と障害のある方ならびに県内の学校行事としての観覧は無料です。

(詳細についてはご確認ください。)

※企画展は別途料金となります。(開催期間中)

*草津市立水生植物公園「みずの森」との共通券。なお、団体は取り扱いません。

■交通案内

●JR新幹線「京都駅」「米原駅」からJR琵琶湖線(東海道)線に乗り換え「草津駅」「守山駅」で下車。

・「草津駅西口」から、近江鉄道バス「烏丸半島」行きで「琵琶湖博物館前」下車(約22分)。タクシーで約20分。

・「守山駅西口」からタクシーで約20分。

●車では、名神高速道路「栗東I.C」から国道1号線を草津方面へ。信号2つ目「上鈎」で右折。湖岸道路につき当たって(「湖岸志那中町」)再度右折し、約1kmで「烏丸半島」へ。

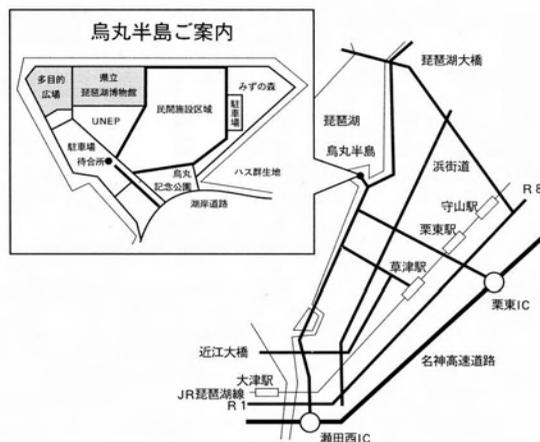
●航路では、琵琶湖汽船のシャトルボートが「大津港」「びわこ大橋港」「堅田港」「雄琴温泉港」から「草津烏丸半島港」へ

(問い合わせ先:琵琶湖汽船 077-524-5000)

■駐車料金

大型バス	1,520円	マイクロバス	1,010円
普通車*	500円	二輪車*	200円

*博物館観覧者が使用する普通車と二輪車は無料扱いとなります。



【館内のご案内】

質問コーナー:学芸員が図書室のカウンターでみなさんからのご質問にお答えしています。

フロアトーク:平日には学芸員がPM 2 : 00から担当の展示コーナーで説明を行っています。

【催し物案内】

ミュージアム観察会:博物館のまわりで自然観察したり、館内の施設で実験・実習を行います。

フィールド観察会:県内各地のフィールドで地域の自然や人々のくらしを見つめ直します。

博物館探検:普段は見ることのできない博物館や展示室の裏側を学芸員が紹介します。

博物館講座:一般の方を対象に専門的な内容をわかりやすく数回連続でお話しします。

博物館入門セミナー:琵琶湖博物館の活動や展示を幅広く知ることのできる連続講座です。

(事前に往復ハガキで申し込んでください。詳しくは、Faxサービス(077-568-4844)、インターネットホームページ(<http://www.lbm.go.jp/>)で案内しています。)

琵琶湖博物館 年報 第4号

2000年(平成12年)10月発行

編集・発行 滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091

電話 077-568-4811

印刷 株式会社スマイ印刷工業

©滋賀県立琵琶湖博物館 2000

Printed in Japan

R100 この冊子は古紙配合率100%の再生紙を使用しています。

